

鳥取県がん検診実績報告書

平成29年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

国の第3期がん対策推進基本計画の概要が固まりました。国の基本計画をもとに第3次鳥取県がん対策推進計画を定めていく準備が進められています。ご存知の通り当県のがん死亡率（以下75歳未満年齢調整死亡率）は全国平均より恒常的に高い値が続いており、より効果的な対策が待たれます。しかし、国の第3期がん対策推進基本計画は、予防をより重視する内容となっており、大きな転換点を迎えたと言えます。2005年から10年間で75歳未満のがん死亡率20%減が目標とされたものの達成できず、この反省から予防重視に舵を切ったものです。予防重視には異論のないところと思われませんが、がん死亡率が高い当県の現状では直近の死亡率減少対策も引き続き求められます。多くの関係機関のご努力によって精度の高いがん検診が行われており受診率も少しずつ上昇しておりますが、死亡率減少効果を期待できる程十分ではありません。受診率の向上に向けて引き続き創意工夫が必要である事は言うまでもありません。

世界保健機関によれば、「がんの30～50%は予防できるため、がん予防は、全てのがんの対策において、最も重要で費用対効果に優れた長期的施策となる」とされています。1次予防としてがんのリスクへの暴露を減少させ、避けられるがんを防ぐことは時間がかかるかもしれませんが、がん死亡者数を減少させる最も確実な方法と考えます。予防できるがんのリスク因子としては、受動喫煙を含む喫煙、過剰飲酒、肥満、野菜の摂取不足、塩蔵食品の過剰摂取などの生活習慣、ウイルスや細菌の感染症などがあげられます。しかし、予防策として最も実効性が期待できるたばこ対策の扱いは現在迷走しています。受動喫煙対策を強化する法案提出にはめども立っておりません。ウイルスや細菌の感染は発がんに大きく寄与する因子となっておりますが、特に、子宮頸がんに関連するヒトパピローマウイルス、肝がんに関連する肝炎ウイルス、成人T細胞白血病に関連するHTLV-1、胃がんに関連するヘリコバクター・ピロリがあげられます。ヒトパピローマウイルスワクチンは積極的勧奨が控えられており、副作用に対する検証が待たれます。B型肝炎ワクチンは定期接種化されましたが、肝炎ウイルスの検査体制整備が進められているものの検査が済んでいるかどうかを正確に把握することは困難ですし、感染を指摘されているのに精査を受診されていない（必要性を理解していない）方も多い状況が続いています。HTLV-1の感染予防対策が行われて、日本におけるキャリアの推計値は、約80万人にまで減少していますが、引き続き対策が必要です。さて、胃がんの年齢調整死亡率は減少しているものの、依然として、がんによる死亡原因の第3位であり、当県においてもがん死亡の大きな要因です。ヘリコバクター・ピロリは感染経路など明らかになっていない部分がありますが、感染が胃がんのリスクであることは科学的に証明されています。県内でもいくつかの試みが行われており検証がすすめられています。確立された方法が無いなかでの検討であり慎重な議論が必要ではありますが、広くご意見が頂ければ幸いです。

第3次の計画策定まであまり多くの時間はありません。がん教育、がん検診、がん治療はもとより、予防の観点からも充実した計画になるよう鳥取県健康対策協議会においても検討を行って参ります。

例年どおり平成28年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。がん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸甚です。

平成29年3月

鳥取県健康対策協議会

会長 魚谷 純

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成27年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	42
5. 大腸がん検診	50
6. 肝臓がん検診	60
7. 全国がん検診実績との比較	72
III. 平成28年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	76
2. 肺がん検診症例研究会報告	78
3. 乳がん検診症例研究会報告	80
4. 大腸がん検診症例研究会報告	82
5. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
6. 各地区がん検診症例検討会開催状況	87
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88

Ⅱ. 平成27年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

(1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者

(2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成27年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は190,556人のうち、受診者数はX線検査13,642人、内視鏡検査は37,828人で合計51,470人、受診率は27.0%で前年度より2,265人、1.2ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は73.5%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数29,097人、受診率35.1%で、全国平均（平成26年度）受診率9.5%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は171人発見され（X線検査18人、内視鏡検査153人）、がん発見率は0.33%であった。平成26年度全国平均がん発見率0.10%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.13%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.40%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.6%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.7%であった。

確定調査の結果、確定癌は169例、発見癌率は0.33%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は13,642人で、受診率は7.2%である。一次検診の要精検査者は1,094人で、要精検査率は8.0%で、前年度より0.6ポイント減少した。精検受診者数927人、精検受診率は84.7%で前年度より1.3ポイント増加した。車検診の要精検査率7.7%。施設検診は9.6%で、依然として中部が15.6%と高い。

精検結果は、胃がんであった者は18人で、胃がん発見率は0.13%であった。

国はプロセス指標として、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、施設検診におけるX線検査では要精検査率が高く、また、よりきれいな写真を撮る技術指導が必要である。

(2) 内視鏡検査は、17市町村で実施され、受診者数は37,828人で、検査結果は胃がんであった者は153人が発見され、発見率は0.40%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,575人で、組織診実施率4.2%、東部5.0%、中部5.2%、西部3.0%で地域格差がある。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は9.7%で、東部8.1%、中部8.0%、西部13.4%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	13,642 (26.5%)	18	0.132
内視鏡検査	17	2	37,828 (73.5%)	153	0.404
計			51,470 (100%)	171	0.332

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	11,613 (85.1%)	900	7.7	8.0	8.5	6.7
施 設 検 診 (病院・診療所)	2,029 (14.9%)	194	9.6	11.2	15.6	7.1
計	13,642 (100%)	1,094	8.0	8.6	8.6	6.8

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	767	85.2	17	0.146	0.147	0.146	0.147
施 設 検 診	160	82.5	1	0.049	0.000	0.000	0.117
計	927	84.7	18	0.132	0.119	0.144	0.141

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	10,162	430	34	0.335	0.332	0.451	0.262
診 療 所	27,666	1,145	119	0.430	0.444	0.408	0.426
計	37,828	1,575	153	0.404	0.404	0.421	0.399

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	5,898	506	8.6	434	85.8	7	0.119
中 部	3,478	299	8.6	246	82.3	5	0.144
西 部	4,266	289	6.8	247	85.5	6	0.141
計	13,642	1,094	8.0	927	84.7	18	0.132

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	15,839	787	5.0	64	0.404	8.1
中 部	5,937	311	5.2	25	0.421	8.0
西 部	16,052	477	3.0	64	0.399	13.4
計	37,828	1,575	4.2	153	0.404	9.7

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成27年度に発見された胃がん及び胃がん疑い274例について確定調査を行った結果、確定胃がんは169例（一次検査がX線検査：車検診17例、施設検診1例、一次検査が内視鏡検査：151例）であった。発見癌率は0.328%であった。また、高齢者でがんと確定はしているが、経過観察中で、詳細が不明なもの3例については確定癌としては計上していない。

がん疑いのうち、最終診断では腺腫、癒痕性胃潰瘍等であった。

調査結果は以下のとおりである。

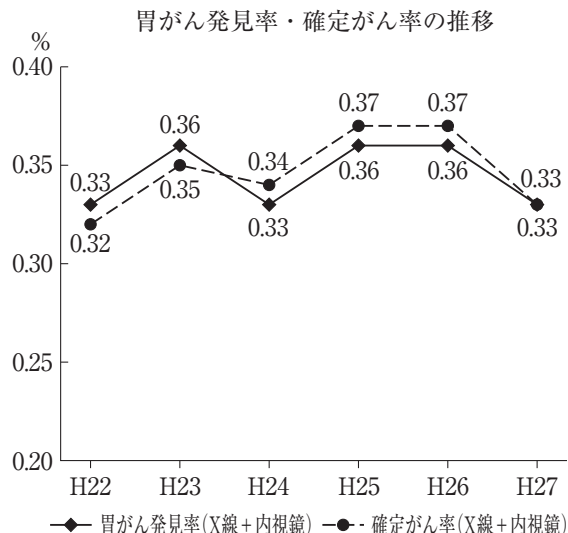
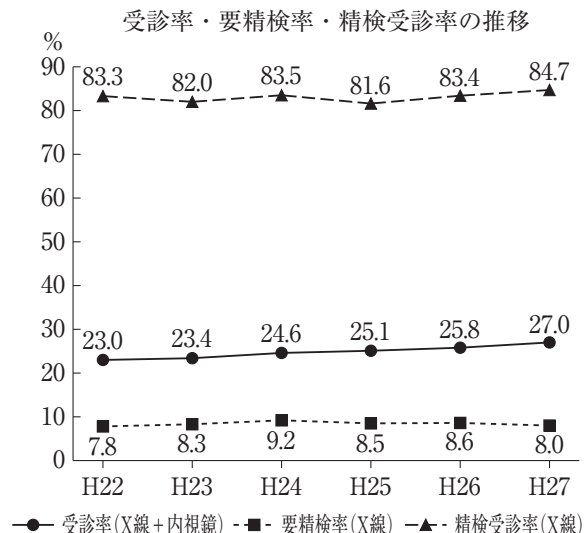
- (1) 早期癌は128例、進行癌は41例であった。早期癌率は75.7%で、東部78.7%、中部66.7%、西部76.6%であった。
- (2) 切除例は100例で、そのうち内視鏡切除が54例で全体の54.0%を占めている。非切除例が15例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性118例、女性51例であった。70歳代が多い。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が64.8%で大半を占めている。進行癌の肉眼分類は例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以内が49.7%であった。5cm以上のものは18例ある。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが9例で50.0%、内視鏡検査ではstage I Aが112例で74.17%であった。例年通りの傾向である。
- (7) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部1件、中部2例、西部2件の計5件で、前年度14例に比べ半減した。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		22 年 度			23 年 度			24 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			188,186			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	16,082	27,214	43,296	15,080	29,435	44,515	15,251	31,711	46,962
	受 診 率(%) C=B/A	8.5	14.5	23.0	7.9	15.4	23.4	8.0	16.6	24.6
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	14,823			13,833			13,855		
	要 精 検 者 数(人) E	1,259			1,247			1,396		
	要 精 検 率(%) F=E/B 指標：許容値1.0%以下	7.8			8.3			9.2		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,049			1,022			1,166		
	精 検 受 診 率(%) H=G/E 指標：目標値90%以上	83.3			82.0			83.5		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	23(2)	119(35)	142(37)	24(5)	135(50)	159(55)	33(0)	124(78)	157(78)
	胃 がん 発 見 率(%) J=I/B 指標：許容値0.11%以上	0.14	0.44	0.33	0.16	0.46	0.36	0.22	0.39	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K=I/E 指標：許容値1.0%以上	1.8			1.9			2.4		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	22	116	138	24	133	157	30	128	158
	確 定 がん 率(%) M=L/B	0.14	0.43	0.32	0.16	0.45	0.35	0.20	0.40	0.34

区 分		25 年 度			26 年 度			27 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	14,303	33,564	47,867	13,801	35,404	49,205	13,642	37,828	51,470
	受 診 率(%) C=B/A	7.5	17.6	25.1	7.2	18.6	25.8	7.2	19.9	27.0
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	13,083			12,620			12,548		
	要 精 検 者 数(人) E	1,220			1,181			1,094		
	要 精 検 率(%) F=E/B 指標：許容値1.0%以下	8.5			8.6			8.0		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	996			985			927		
	精 検 受 診 率(%) H=G/E 指標：目標値90%以上	81.6			83.4			84.7		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	27(5)	144(55)	171(60)	25(3)	153(48)	178(51)	18(1)	153(102)	171(103)
	胃 がん 発 見 率(%) J=I/B 指標：許容値0.11%以上	0.19	0.43	0.36	0.18	0.43	0.36	0.13	0.40	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K=I/E 指標：許容値1.0%以上	2.2			2.1			1.6		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	29	146	175	27	154	181	18	151	169
	確 定 がん 率(%) M=L/B	0.20	0.43	0.37	0.20	0.43	0.37	0.13	0.40	0.33

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上。
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(2) 平成27年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	337	666	15.6	16.5	16.2	18	20	319	646	5.3	3.0	3.8
45～49歳	2,326	3,853	257	569	11.0	14.8	13.4	15	21	242	548	5.8	3.7	4.4
50～54歳	3,058	4,974	319	600	10.4	12.1	11.4	24	29	295	571	7.5	4.8	5.8
55～59歳	4,908	8,189	346	839	7.0	10.2	9.0	23	48	323	791	6.6	5.7	6.0
60～64歳	9,854	13,797	845	1,353	8.6	9.8	9.3	97	88	748	1,265	11.5	6.5	8.4
65～69歳	11,061	14,574	1,284	1,663	11.6	11.4	11.5	148	120	1,136	1,543	11.5	7.2	9.1
70～74歳	11,588	16,049	848	1,062	7.3	6.6	6.9	90	91	758	971	10.6	8.6	9.5
75～79歳	11,797	17,672	663	846	5.6	4.8	5.1	75	74	588	772	11.3	8.7	9.9
80歳以上	15,558	35,092	544	601	3.5	1.7	2.3	59	54	485	547	10.8	9.0	9.9
計	72,308	118,248	5,443	8,199	7.5	6.9	7.2	549	545	4,894	7,654	10.1	6.6	8.0
合 計	190,556		13,642		7.2			1,094		12,548		8.0		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f/d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h/b			陽性反応適中度 (%) j = h/d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	11	17	61.1	85.0	73.7	2	2	9	14	0	0	0	1	0.000	0.150	0.100	0.0	5.0	2.6
45～49歳	11	20	73.3	95.2	86.1	1	4	10	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	20	22	83.3	75.9	79.2	2	6	18	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	15	37	65.2	77.1	73.2	4	8	11	29	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	74	75	76.3	85.2	80.5	18	14	55	60	0	0	1	1	0.118	0.074	0.091	1.0	1.1	1.1
65～69歳	117	107	79.1	89.2	83.6	20	18	94	85	0	1	3	3	0.234	0.180	0.204	2.0	2.5	2.2
70～74歳	80	87	88.9	95.6	92.3	15	14	63	72	0	0	2	1	0.236	0.094	0.157	2.2	1.1	1.7
75～79歳	64	68	85.3	91.9	88.6	8	17	53	49	0	0	3	2	0.452	0.236	0.331	4.0	2.7	3.4
80歳以上	53	49	89.8	90.7	90.3	11	8	42	40	0	0	0	1	0.000	0.166	0.087	0.0	1.9	0.9
計	445	482	81.1	88.4	84.7	81	91	355	381	0	1	9	9	0.165	0.110	0.132	1.6	1.7	1.6
合 計	927		84.7			172		736		1		18		0.132			1.6		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,483	6,826	456	425	4,027	6,401	10.2	6.2	7.8
中国労働衛生協会	126	178	5	14	121	164	4.0	7.9	6.3
病 院	382	564	46	61	336	503	12.0	10.8	11.3
診 療 所	452	631	42	45	410	586	9.3	7.1	8.0
計	5,443	8,199	549	545	4,894	7,654	10.1	6.6	8.0
合 計	13,642		1,094		12,548		8.0		

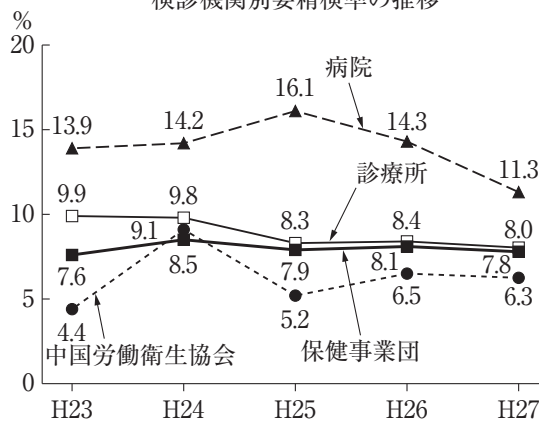
b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	373	376	81.8	88.5	85.0	73	74	291	293	0	1	9	8	0.201	0.117	0.150	2.0	1.9	1.9
中国労働衛生協会	5	13	100.0	92.9	94.7	1	6	4	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	378	389	82.0	88.6	85.2	74	80	295	300	0	1	9	8	0.195	0.114	0.146	2.0	1.8	1.9
病院	35	49	76.1	80.3	78.5	4	5	31	43	0	0	0	1	0.000	0.177	0.106	0.0	1.6	0.9
診療所	32	44	76.2	97.8	87.4	3	6	29	38	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
施設検診小計	67	93	76.1	87.7	82.5	7	11	60	81	0	0	0	1	0.000	0.084	0.049	0.0	0.9	0.5
計	445	482	81.1	88.4	84.7	81	91	355	381	0	1	9	9	0.165	0.110	0.132	1.6	1.7	1.6
合計	927		84.7			172		736		1		18		0.132			1.6		

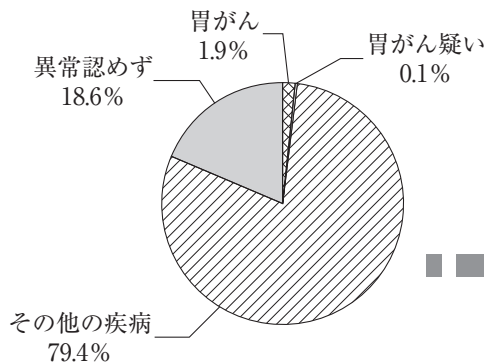
・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
保健事業団	7.6	8.5	7.9	8.1	7.8
中国労働衛生協会	4.4	9.1	5.2	6.5	6.3
車検診小計	7.6	8.6	7.8	8.0	7.7
病院	13.9	14.2	16.1	14.3	11.3
診療所	9.9	9.8	8.3	8.4	8.0
施設検診小計	11.1	11.5	11.5	11.0	9.6
合計	8.3	9.2	8.5	8.6	8.0

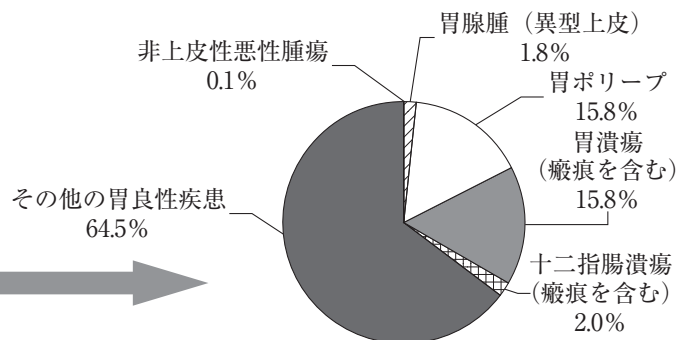
検診機関別要精検率の推移



精密検査結果 (X線)



その他の疾病の内訳



4) 平成27年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数			受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員											
	A	B	C	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	G	H=F+G	I=H/D	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	L	M	N	O	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度	
						$E = D/A$	F					J	$K = J/H$						$P = M+N+O$	$Q = O/D$	$R = O/H$	
鳥取市	57,433	2,599	978	3,577	6.2	181	101	282	7.9	245	86.9	33	207	0	5	212	0.140	1.8				
米子市	42,442	629	639	1,268	3.0	34	54	88	6.9	77	87.5	6	69	0	2	71	0.158	2.3				
倉吉市	17,700	942	33	975	5.5	87	5	92	9.4	74	80.4	21	52	1	0	53	0.000	0.0				
境港市	11,307	253	181	434	3.8	14	6	20	4.6	17	85.0	2	15	0	0	15	0.000	0.0				
岩美町	4,844	615	9	624	12.9	60	4	64	10.3	52	81.3	6	44	0	2	46	0.321	3.1				
八頭町	6,534	1,159	45	1,204	18.4	98	3	101	8.4	83	82.2	13	70	0	0	70	0.000	0.0				
若桜町	1,776	197	6	203	11.4	24	1	25	12.3	21	84.0	3	18	0	0	18	0.000	0.0				
智頭町	3,263	201	89	290	8.9	17	17	34	11.7	33	97.1	2	31	0	0	31	0.000	0.0				
湯梨浜町	5,964	630	6	636	10.7	58	1	59	9.3	50	84.7	17	30	0	3	33	0.472	5.1				
三朝町	2,767	398	0	398	14.4	33	0	33	8.3	33	100.0	5	27	0	1	28	0.251	3.0				
北栄町	5,729	676	4	680	11.9	48	1	49	7.2	40	81.6	22	18	0	0	18	0.000	0.0				
琴浦町	7,221	787	2	789	10.9	66	0	66	8.4	49	74.2	16	32	0	1	33	0.127	1.5				
南部町	4,221	286	30	316	7.5	17	1	18	5.7	13	72.2	1	11	0	1	12	0.316	5.6				
伯耆町	4,533	560	0	560	12.4	45	0	45	8.0	38	84.4	6	31	0	1	32	0.179	2.2				
日吉津村	995	191	7	198	19.9	11	0	11	5.6	10	90.9	0	10	0	0	10	0.000	0.0				
大山町	7,503	656	0	656	8.7	38	0	38	5.8	33	86.8	3	28	0	2	30	0.305	5.3				
日南町	2,966	388	0	388	13.1	30	0	30	7.7	25	83.3	7	18	0	0	18	0.000	0.0				
日野町	1,783	252	0	252	14.1	24	0	24	9.5	20	83.3	4	16	0	0	16	0.000	0.0				
江府町	1,575	194	0	194	12.3	15	0	15	7.7	14	93.3	5	9	0	0	9	0.000	0.0				
合計	190,556	11,613	2,029	13,642	7.2	900	194	1,094	8.0	927	84.7	172	736	1	18	755	0.132	1.6				
東部	73,850	4,771	1,127	5,898	8.0	380	126	506	8.6	434	85.8	57	370	0	7	377	0.119	1.4				
中部	39,381	3,433	45	3,478	8.8	292	7	299	8.6	246	82.3	81	159	1	5	165	0.144	1.7				
西部	77,325	3,409	857	4,266	5.5	228	61	289	6.8	247	85.5	34	207	0	6	213	0.141	2.1				

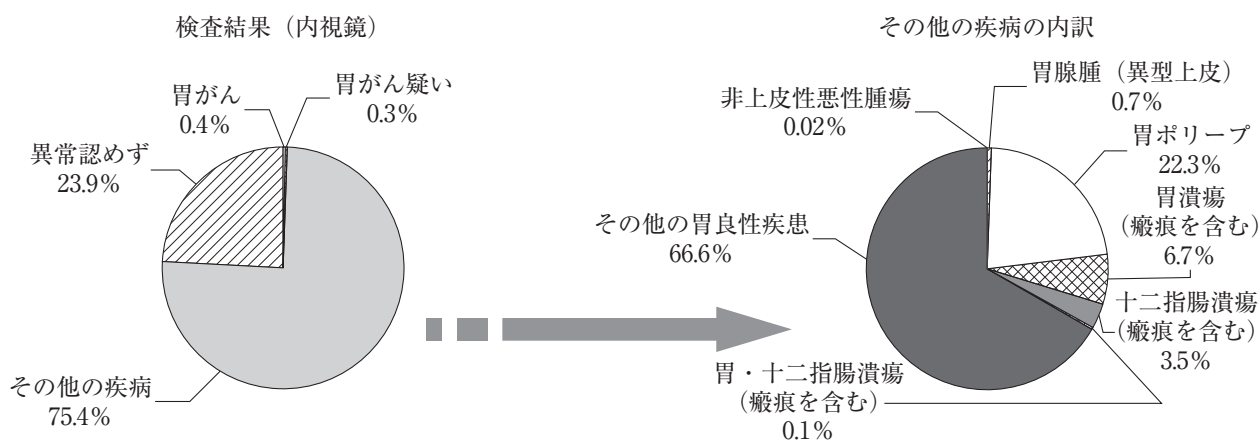
(3) 平成27年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	536	990	216	403	320	586	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	422	881	139	309	282	568	1	1	0	3	0.000	0.341	0.230
50～54歳	482	1,161	131	369	348	791	2	1	1	0	0.207	0.000	0.061
55～59歳	732	1,658	176	470	554	1,182	1	6	1	0	0.137	0.000	0.042
60～64歳	1,892	2,956	428	764	1,444	2,182	8	5	12	5	0.634	0.169	0.351
65～69歳	3,554	4,755	741	1,170	2,772	3,568	15	7	26	10	0.732	0.210	0.433
70～74歳	2,968	3,963	594	932	2,333	3,018	12	6	29	7	0.977	0.177	0.519
75～79歳	2,240	3,218	415	735	1,799	2,467	9	10	17	6	0.759	0.186	0.421
80歳以上	2,174	3,246	422	633	1,718	2,594	8	9	26	10	1.196	0.308	0.664
計	15,000	22,828	3,262	5,785	11,570	16,956	56	46	112	41	0.747	0.180	0.404
合 計	37,828		9,047		28,526		102		153		0.404		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,252	5,910	824	1,236	3,383	4,654	17	14	28	6	0.659	0.102	0.335
診療所	10,748	16,918	2,438	4,549	8,187	12,302	39	32	84	35	0.782	0.207	0.430
計	15,000	22,828	3,262	5,785	11,570	16,956	56	46	112	41	0.747	0.180	0.404
合計	37,828		9,047		28,526		102		153		0.404		



3) 平成27年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	13,690	678	5.0	2,335	11,249	51	55	11,355	0.402	8.1
米子市	11,163	243	2.2	2,366	8,737	13	47	8,797	0.421	19.3
倉吉市	2,268	127	5.6	993	1,251	11	13	1,275	0.573	10.2
境港市	2,568	200	7.8	653	1,903	1	11	1,915	0.428	5.5
岩美町	339	28	8.3	11	324	3	1	328	0.295	3.6
八頭町	987	69	7.0	148	830	3	6	839	0.608	8.7
若桜町	279	0	0.0	34	243	1	1	245	0.358	0.0
智頭町	544	12	2.2	19	524	0	1	525	0.184	8.3
湯梨浜町	1,063	71	6.7	401	658	1	3	662	0.282	4.2
三朝町	241	0	0.0	89	150	2	0	152	0.000	0.0
北栄町	1,030	45	4.4	456	563	6	5	574	0.485	11.1
琴浦町	1,335	68	5.1	829	499	3	4	506	0.300	5.9
南部町	1,328	0	0.0	339	979	6	4	989	0.301	0.0
伯耆町	628	13	2.1	222	404	1	1	406	0.159	7.7
日吉津村	39	6	15.4	8	31	0	0	31	0.000	0.0
大山町	88	5	5.7	88	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	238	10	4.2	56	181	0	1	182	0.420	10.0
合 計	37,828	1,575	4.2	9,047	28,526	102	153	28,781	0.404	9.7
東 部	15,839	787	5.0	2,547	13,170	58	64	13,292	0.404	8.1
中 部	5,937	311	5.2	2,768	3,121	23	25	3,169	0.421	8.0
西 部	16,052	477	3.0	3,732	12,235	21	64	12,320	0.399	13.4

(4) 平成27年度胃がん検診受診状況 (X線+内視鏡)

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果+内視鏡検査結果						
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K = I / D	
鳥取市	57,433	3,577	13,690	17,267	30.1	2,368	11,456	51	60	11,567	0.347	
米子市	42,442	1,268	11,163	12,431	29.3	2,372	8,806	13	49	8,868	0.394	
倉吉市	17,700	975	2,268	3,243	18.3	1,014	1,303	12	13	1,328	0.401	
境港市	11,307	434	2,568	3,002	26.5	655	1,918	1	11	1,930	0.366	
岩美町	4,844	624	339	963	19.9	17	368	3	3	374	0.312	
八頭町	6,534	1,204	987	2,191	33.5	161	900	3	6	909	0.274	
若桜町	1,776	203	279	482	27.1	37	261	1	1	263	0.207	
智頭町	3,263	290	544	834	25.6	21	555	0	1	556	0.120	
湯梨浜町	5,964	636	1,063	1,699	28.5	418	688	1	6	695	0.353	
三朝町	2,767	398	241	639	23.1	94	177	2	1	180	0.156	
北栄町	5,729	680	1,030	1,710	29.8	478	581	6	5	592	0.292	
琴浦町	7,221	789	1,335	2,124	29.4	845	531	3	5	539	0.235	
南部町	4,221	316	1,328	1,644	38.9	340	990	6	5	1,001	0.304	
伯耆町	4,533	560	628	1,188	26.2	228	435	1	2	438	0.168	
日吉津村	995	198	39	237	23.8	8	41	0	0	41	0.000	
大山町	7,503	656	88	744	9.9	91	28	0	2	30	0.269	
日南町	2,966	388	0	388	13.1	7	18	0	0	18	0.000	
日野町	1,783	252	0	252	14.1	4	16	0	0	16	0.000	
江府町	1,575	194	238	432	27.4	61	190	0	1	191	0.231	
合計	190,556	13,642	37,828	51,470	27.0	9,219	29,262	103	171	29,536	0.332	
東部	73,850	5,898	15,839	21,737	29.4	2,604	13,540	58	71	13,669	0.327	
中部	39,381	3,478	5,937	9,415	23.9	2,849	3,280	24	30	3,334	0.319	
西部	77,325	4,266	16,052	20,318	26.3	3,766	12,442	21	70	12,533	0.345	

(5) 平成27年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	7	0	68	5	0	25	5	1	58	169
癌 発 見 率 %	0.147	0.000	0.429	0.146	0.000	0.421	0.147	0.117	0.361	
	75 0.345			30 0.319			64 0.315			0.328
早 期 癌 数	4	0	55	1	0	19	4	0	45	128
早 期 癌 率 %	59 78.7			20 66.7			49 76.6			
進 行 癌 数	3	0	13	4	0	6	1	1	13	41
切 除 例	4	0	38	1	0	18	3	0	36	100
内 視 鏡 切 除 例	3	0	27	1	0	5	1	0	17	54
非 切 除 例	0	0	3	3	0	2	1	1	5	15

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	0	3	42	49	24	118
女	4	1	18	17	11	51

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	0	3	0	0	2	1	0	1	8	6.3%
IIa	0	0	6	1	0	3	0	0	4	14	10.9%
IIc	3	0	35	0	0	9	2	0	34	83	64.8%
IIc+III	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1.6%
IIa+IIc	0	0	5	0	0	2	1	0	6	14	10.9%
そ の 他	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	4.7%
不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.8%
計	4	0	55	1	0	19	4	0	45	128	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.4%
2	2	0	8	2	0	2	0	1	4	19	46.3%
3	0	0	4	1	0	3	1	0	3	12	29.3%
4	0	0	1	1	0	1	0	0	4	7	17.1%
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.4%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.4%
計	3	0	13	4	0	6	1	1	13	41	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1a	2	0	41	1	0	15	1	0	25	85
t1b	2	0	14	0	0	4	3	0	20	43
t2	2	0	6	1	0	2	0	0	1	12
t3	0	0	2	2	0	4	1	0	3	12
t4a	1	0	4	1	0	0	0	0	6	12
t4b	0	0	1	0	0	0	0	1	2	4
計	7	0	68	5	0	25	5	1	57	168
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	1	7	8	50.0%	5	3	16	1
施	0	0	0	0.0%	0	0	0	1
内	26	45	71	49.7%	57	15	143	8
計	27	52	79	49.7%	62	18	159	10

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	3	0	16
M	2	0	67
L	4	0	33
全 体	0	0	0
計	9	0	116
不 明	0	0	2

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	0	45
大 弯	1	0	17
前 壁	1	0	26
後 壁	2	0	29
全 周	0	0	0
計	7	0	117
不 明	2	0	2

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	12
M	4	0	11
L	3	0	9
全 体	0	0	0
計	8	0	32
不 明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	1	0	7
大 弯	1	1	6
前 壁	2	0	4
後 壁	3	0	6
全 周	1	0	3
計	8	1	26
不 明	0	0	6

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線		内	
I A	4	0	53	1	0	19	4	0	40	9	0	112	9	50.0%	112	74.17%
I B	1	0	5	0	0	2	0	0	5	1	0	12	1	5.6%	12	7.95%
II A	0	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	6	0	0.0%	6	3.97%
II B	1	0	2	1	0	0	1	0	3	3	0	5	3	16.7%	5	3.31%
III A	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5.6%	0	0.00%
III B	1	0	1	0	0	2	0	0	3	1	0	6	1	5.6%	6	3.97%
III C	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0.0%	5	3.31%
IV	0	0	0	2	0	2	0	1	3	2	1	5	3	16.7%	5	3.31%
計	7	0	68	5	0	25	5	1	58	17	1	151	18	100.0%	151	100.0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	

表9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

	年齢	性別	地区	検診	型	大きさ	stage	深達度	組織型	部位		前年受診結果	
												検診方法	結果
1	79	女	1. 東部	車	2	2.80	I B	T2(mp)	por2(non-sol)	M	後壁	車検診・X線	異常なし
2	76	男	2. 中部	車	2	7.00	IV	T3(ss)	por1(sol)	L	前壁	車検診・X線	異常なし
3	78	男	2. 中部	内	2	1.80	I B	T2(mp)	tub2	M	前壁	内視鏡	胃ポリープ
4	82	男	3. 西部	内	1	2.63	II B	T4a(se)	por1(sol)	U	大弯	内視鏡	精検不要
5	80	男	3. 西部	内	2	3.40	II B	T3(ss)	muc	U	後壁	内視鏡	精検不要

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成27年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）135,485人のうち、受診者数32,600人、受診率24.1%で、平成20年度以降受診者数、受診率共に増加傾向である。35歳～54歳の受診率は50%以上で目標値をクリアしている。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は73.8%で例年どおりであった。また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数66,672人、受診者数27,368人、受診率41.0%で、全国平均（平成26年度）受診率32.4%に比較し高い。

要精検者数は302人（判定不能で再検査未実施となった者18名を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が23人であった。要精検率は0.93%で、平成26年度に比べ、要精検者数58人、要精検率が0.22ポイントそれぞれ減少した。

精検受診者数262人、精検受診率86.8%で平成26年度に比べ5.7ポイント増加した。

精検の結果、がん14人、がん発見率（がん/受診者数）は0.04%で、平成26年度に比べ、発見がんが9人、がん発見率が0.03ポイントそれぞれ減少した。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は4.6%であった。異形成は146人（軽度94人、高度52人）であった。

要精検率は過去5年間で高く推移しており、特に20～40歳代が高い。車検診0.40%に比べ施設検診の方が1.21%と高い。特に40歳未満の受診者割合が約4割を占める診療所の要精検率が1.54%と高かった。

がん発見率は35～39歳代が高く推移している。車検診0.035%に比べ施設検診の方が0.047%と高い。陽性反応適中度は車検診8.7%、診療所4.2%、病院2.4%であった。

国の指標は要精検率許容値1.4%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.05%以上、陽性反応適中度許容値4.0%以上である。例年と同様に精検受診率は指標を下回る結果であった。昨年度の会議において、要精検者数に判定不能で再検査未実施となった者を含めていることが国の指標の精検受診率目標値90%以上を達成できない要因の一つとなっているのではという指摘があった。それを受けて判定不能で再検査未実施となった者を要精検者数から除外して算定した場合には、要精検者数は284人となり、精検受診率は92.3%で、目標値はクリアしていると考えられる。今年度に限ってはがん発見率も許容値を下回る結果であった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団)	11,496 (35.3%)	46	0.40	0.41	0.32	0.52
施 設 検 診 (病院・診療所)	21,104 (64.7%)	256	1.21	1.19	0.91	1.30
計	32,600 (100%)	302	0.93	0.84	0.56	1.18

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	37	80.4	4	0.035	0.036	0.027	0.047
施 設 検 診	225	87.9	10	0.047	0.085	0.000	0.035
計	262	86.8	14	0.043	0.063	0.016	0.037

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	異形成	がん	がん発見率(%)
東 部	5,596	23	0.41	20	87.0	5	2	0.036
中 部	3,770	12	0.32	9	75.0	8	1	0.027
西 部	2,130	11	0.52	8	72.7	5	1	0.047
計	11,496	46	0.40	37	80.4	18	4	0.035

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	異形成	がん	がん発見率(%)
東 部	7,086	84	1.19	75	89.3	28	6	0.085
中 部	2,631	24	0.91	18	75.0	10	0	0.000
西 部	11,387	148	1.30	132	89.2	90	4	0.035
計	21,104	256	1.21	225	87.9	128	10	0.047

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者32,600人中、体部がん検診対象者数は896人、一次検診会場での受診者は806人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は15人、受診者の合計は821人、受診率は91.6%であった。

一次検診の結果、要精検となった者23人、要精検率2.85%、精密検査受診者数は19人であった。精検の結果、子宮体部がんが6人発見され、がん発見率は0.74%であった。陽性反応適中度は26.1%であった。子宮内膜増殖症は2人であった。

また、医療機関での別途受診者から子宮体部がんが2人、子宮内膜増殖症が4人発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成27年度は子宮頸部癌14名で、0期9例、I B期以上が5例であった。一方、異形成は146例であった。なお、I B期以上5例の検診歴は、初回3例、3年以上前受診2例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は8例であった。

4. その他

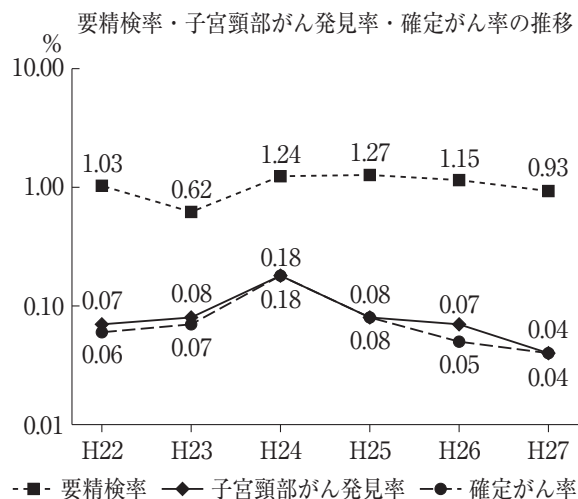
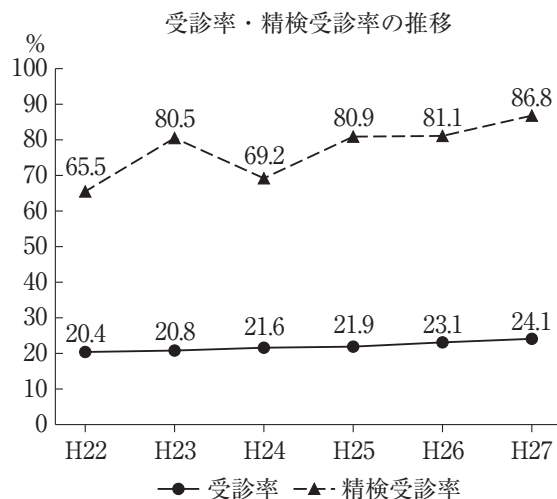
1) 平成27年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成27年度実績は、妊婦健康診査受診者4,550人中、子宮頸部がん検診受診者数4,485人、受診率98.6%で、要精検者数36人、要精検率0.80%、市町村が把握できた精検結果は30人で、そのうち異形成が8人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一次検診	対象者数(人) A	139,232	135,485	135,485	135,485	135,485	135,485
	受診者数(人) B	28,453	28,247	29,307	29,640	31,243	32,600
	受診率(%) C = B/A	20.4	20.8	21.6	21.9	23.1	24.1
一次検診結果	異常認めず(人) D	28,098	28,051	28,915	29,193	30,868	32,275
	要精検者数(人) E	293	174	364	377	360	302
	判定不能(人) F	62	22	28	70	15	23
	要精検率(%) G = E/B 指標:許容値1.4%以下	1.03	0.62	1.24	1.27	1.15	0.93
精密検査	精検受診者数(人) H	192	140	252	305	292	262
	精検受診率(%) I = H/E 指標:目標値90%以上	65.5	80.5	69.2	80.9	81.1	86.8
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	20(105)	23(76)	53(112)	25(150)	23(155)	14(146)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標:許容値0.05%以上	0.07	0.08	0.18	0.08	0.07	0.04
	陽性反応適中度(%) L = J/H 指標:許容値4.0%以上	6.8	13.2	14.6	6.6	6.4	4.6
確定調査結果	確定がん数(人) M	18	21	52	25	15	14
	確定がん率(%) N = M/B	0.06	0.07	0.18	0.08	0.05	0.04

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上。
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上。
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。
- * 5 要精検者数について、平成22年度報告から一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上。



(2) 平成27年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,892	629	16.2	151	7	0	622	1.11
25～29歳	3,649	1,316	36.1	623	35	0	1,281	2.66
30～34歳	4,726	2,255	47.7	1,192	43	0	2,212	1.91
35～39歳	4,970	2,836	57.1	1,927	61	1	2,774	2.15
40～44歳	4,048	3,351	82.8	2,287	72	2	3,277	2.15
45～49歳	3,853	2,733	70.9	1,952	35	3	2,695	1.28
50～54歳	4,974	2,793	56.2	2,067	15	2	2,776	0.54
55～59歳	8,189	3,064	37.4	2,354	14	4	3,046	0.46
60～64歳	13,797	3,865	28.0	3,077	5	5	3,855	0.13
65～69歳	14,574	4,526	31.1	3,860	8	4	4,514	0.18
70～74歳	16,049	2,755	17.2	2,424	5	1	2,749	0.18
75～79歳	17,672	1,691	9.6	1,478	1	1	1,689	0.06
80歳以上	35,092	786	2.2	675	1	0	785	0.13
計	135,485	32,600	24.1	24,067	302	23	32,275	0.93

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮がん 発見率 (%) n = k/b	陽性反応 適中度 (%) o = k/d	
			異 常 認めず	その他 の疾病	異形成 h = i + j	軽 度 異形成 i	高 度 異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内 が ん l			浸潤 が ん m
20~24歳	6	85.7	1	1	4	4	0	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	32	91.4	11	2	19	15	4 (4)	0	0	0	0.000	0.0
30~34歳	41	95.3	13	7	19	10	9 (8)	2	1	1	0.089	4.7
35~39歳	56	91.8	13	6	31	16	15 (9)	6	5	1	0.212	9.8
40~44歳	62	86.1	12	9	39	23	16 (6)	2	2	0	0.060	2.8
45~49歳	28	80.0	8	4	15	10	5 (4)	1	0	1	0.037	2.9
50~54歳	14	93.3	5	3	6	6	0	0	0	0	0.000	0.0
55~59歳	9	64.3	2	1	6	4	2 (1)	0	0	0	0.000	0.0
60~64歳	4	80.0	0	0	4	3	1 (1)	0	0	0	0.000	0.0
65~69歳	6	75.0	1	0	2	2	0	3	2	1	0.066	37.5
70~74歳	2	40.0	0	1	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
75~79歳	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	262	86.8	68	34	146	94	52(33)	14	10	4	0.043	4.6

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

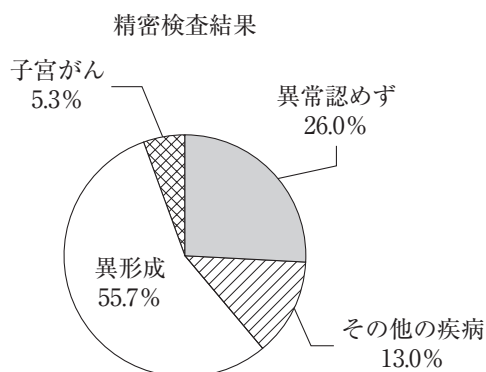
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判 定 不 能	異常認めず	
保健事業団	11,496	46	1	11,449	0.40
病 院	7,119	41	17	7,061	0.58
診 療 所	13,985	215	5	13,765	1.54
計	32,600	302	23	32,275	0.93

b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮がん 発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応 適中度 (%) m' = i'/b'	
			異 常 認めず	その他 の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽 度 異形成 g'	高 度 異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内 が ん j'			浸潤 が ん k'
保健事業団	37	80.4	10	5	18	9	9 (4)	4	3	1	0.035	8.7
病 院	30	73.2	12	3	14	8	6 (4)	1	1	0	0.014	2.4
診 療 所	195	90.7	46	26	114	77	37(25)	9	6	3	0.064	4.2
計	262	86.8	68	34	146	94	52(33)	14	10	4	0.043	4.6

※ () 内は中等度異形成を内数で計上



4) 平成27年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診率 (%)	異常認めず	その他の疾病	異形成	がん	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	42,481	3,314	6,514	9,828	23.1	20	80	100	1.02	89	89.0	28	22	31	8	61	0.081	8.0
米子市	32,100	0	7,938	7,938	24.7	0	125	125	1.57	117	93.6	24	9	81	3	93	0.038	2.4
倉吉市	12,310	699	1,524	2,223	18.1	3	16	19	0.85	14	73.7	3	0	11	0	11	0.000	0.0
境港市	8,044	276	1,564	1,840	22.9	4	7	11	0.60	9	81.8	4	0	5	0	5	0.000	0.0
岩美町	3,252	646	61	707	21.7	1	1	2	0.28	2	100.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0
八頭町	4,327	1,128	144	1,272	29.4	1	2	3	0.24	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000	0.0
若桜町	1,139	291	46	337	29.6	1	0	1	0.30	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	2,064	217	321	538	26.1	0	1	1	0.19	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0
湯梨浜町	3,978	733	445	1,178	29.6	2	3	5	0.42	3	60.0	1	1	1	0	2	0.000	0.0
三朝町	1,788	352	106	458	25.6	1	1	2	0.44	2	100.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0
北栄町	3,773	895	282	1,177	31.2	4	3	7	0.59	6	85.7	0	1	4	1	6	0.085	14.3
琴浦町	4,788	1,091	274	1,365	28.5	2	1	3	0.22	2	66.7	1	0	1	0	1	0.000	0.0
南部町	2,816	332	504	836	29.7	1	6	7	0.84	4	57.1	1	1	2	0	3	0.000	0.0
伯耆町	3,005	470	328	798	26.6	1	2	3	0.38	3	100.0	0	0	3	0	3	0.000	0.0
日吉津村	747	46	263	309	41.4	0	2	2	0.65	2	100.0	0	0	1	1	2	0.324	50.0
大山町	4,882	481	408	889	18.2	3	3	6	0.67	3	50.0	0	0	2	1	3	0.112	16.7
日南町	1,837	301	45	346	18.8	2	0	2	0.58	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	1,148	224	6	230	20.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	1,006	0	331	331	32.9	0	3	3	0.91	1	33.3	0	0	1	0	1	0.000	0.0
合計	135,485	11,496	21,104	32,600	24.1	46	256	302	0.93	262	86.8	68	34	146	14	194	0.043	4.6
東部	53,263	5,596	7,086	12,682	23.8	23	84	107	0.84	95	88.8	32	22	33	8	63	0.063	7.5
中部	26,637	3,770	2,631	6,401	24.0	12	24	36	0.56	27	75.0	6	2	18	1	21	0.016	2.8
西部	55,585	2,130	11,387	13,517	24.3	11	148	159	1.18	140	88.1	30	10	95	5	110	0.037	3.1

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		22 年 度			23 年 度			24 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	707		707	735		735	833		833
	受 診 者 数(人) B	608	63	671	626	76	702	672	105	777
	受 診 率 (%) C = B / A	86.0		94.9	85.2		95.5	80.7		93.3
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	605			618			670		
	要 精 検 者 数(人) E	2			8			2		
	判 定 不 能(人) F	1			0			0		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	0.33			1.28			0.30		
	精 検 受 診 者 数(人) H	1			7			2		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	50.0			87.5			100.0		
	子 宮 が ん の 者(人) J	1(0)	1(0)	2(0)	4(2)	2(3)	6(5)	1(0)	1(2)	2(2)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.16	1.59	0.30	0.64	2.63	0.85	0.15	0.95	0.26
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / H	50.00			50.00			50.00		
	確 定 が ん 数(人) M	1	1	2	4	2	6	1	1	2
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.30			0.85			0.26

区 分		25 年 度			26 年 度			27 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	559		559	823		823	896		896
	受 診 者 数(人) B	443	84	527	709	78	787	806	15	821
	受 診 率 (%) C = B / A	79.2		94.3	86.1		95.6	90.0		91.6
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	435			697			782		
	要 精 検 者 数(人) E	6			9			23		
	判 定 不 能(人) F	2			3			1		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	1.35			1.27			2.85		
	精 検 受 診 者 数(人) H	4			8			19		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	66.7			88.9			82.6		
	子 宮 が ん の 者(人) J	1(2)	0(1)	1(3)	3(3)	0(0)	3(3)	6(2)	2(4)	8(6)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.23	0.00	0.19	0.42	0.00	0.38	0.74	13.33	0.97
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / H	16.67			33.33			26.09		
	確 定 が ん 数(人) M	1	0	1	3	0	3	6	2	8
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.19			0.38			0.97

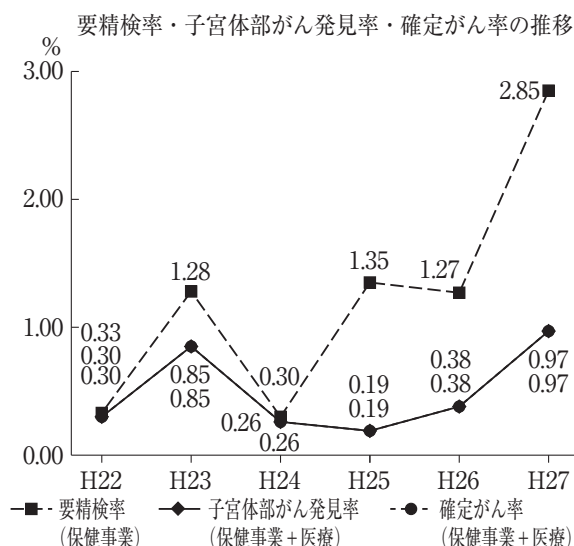
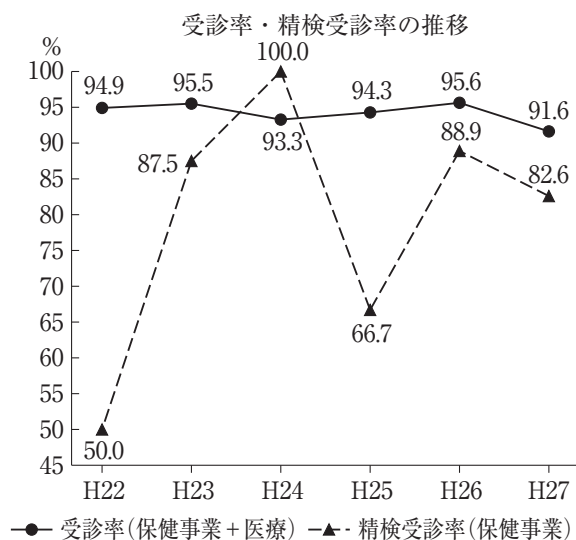
※「保健事業分」=車検診及び施設検診により検診を受けた者、「医療分」=車検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者。

※精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上。

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上。

※陽性反応適中度は、要精検受診者を分母として算出。

※確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(4) 平成27年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	629	2	0.32	2	100.0	0	0	2	0.0
25～29歳	1,316	12	0.91	10	83.3	0	0	10	0.0
30～34歳	2,255	45	2.00	44	97.8	1	0	43	2.3
35～39歳	2,836	78	2.75	73	93.6	0	0	73	0.0
40～44歳	3,351	119	3.55	105	88.2	1	0	104	1.0
45～49歳	2,733	196	7.17	183	93.4	4	0	179	2.2
50～54歳	2,793	168	6.02	149	88.7	7	1	141	4.7
55～59歳	3,064	105	3.43	96	91.4	3	0	93	3.1
60～64歳	3,865	60	1.55	51	85.0	1	0	50	2.0
65～69歳	4,526	66	1.46	59	89.4	3	0	56	5.1
70～74歳	2,755	26	0.94	23	88.5	2	0	21	8.7
75～79歳	1,691	16	0.95	11	68.8	1	0	10	9.1
80歳以上	786	3	0.38	0	0.0	0	0	0	0.0
計	32,600	896	2.75	806	90.0	23	1	782	2.9

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮体部がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
45～49歳	4	100.0	4	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	6	85.7	1	4	0	1	0.67	14.3
55～59歳	3	100.0	1	0	0	2	2.08	66.7
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	2	66.7	0	0	1	1	1.69	33.3
70～74歳	2	100.0	0	0	1	1	4.35	50.0
75～79歳	1	100.0	0	0	0	1	9.09	100.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	19	82.6	7	4	2	6	0.74	26.1

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査受診者数	精密検査結果					子宮体部がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	0	0	0	0	0	0	0.00
35～39歳	0	0	0	0	0	0	0.00
40～44歳	3	2	0	1	0	0	0.00
45～49歳	1	1	0	0	0	0	0.00
50～54歳	6	2	0	2	2	0	33.33
55～59歳	1	1	0	0	0	0	0.00
60～64歳	1	0	0	1	0	0	0.00
65～69歳	1	1	0	0	0	0	0.00
70～74歳	0	0	0	0	0	0	0.00
75～79歳	1	1	0	0	0	0	0.00
80歳以上	1	1	0	0	0	0	0.00
計	15	9	0	4	2	0	13.33

4) 平成27年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診	施設検診	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その 他の 疾病 M	子宮内 膜 増殖症 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	218	0	154	154	70.6	0	1	1	0.65	1	100.0	0	0	0	1	1	0.65	100.0
米子市	320	0	319	319	99.7	0	7	7	2.19	6	85.7	2	1	1	2	4	0.63	28.6
倉吉市	127	0	117	117	92.1	0	5	5	4.27	3	60.0	2	1	0	0	1	0.00	0.0
境港市	32	1	31	32	100.0	0	2	2	6.25	2	100.0	1	0	0	1	1	3.13	50.0
岩美町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	9	0	9	9	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	6	0	4	4	66.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	44	0	40	40	90.9	0	3	3	7.50	3	100.0	0	2	0	1	3	2.50	33.3
三朝町	8	0	8	8	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	16	0	15	15	93.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	31	3	25	28	90.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	25	0	25	25	100.0	0	4	4	16.00	4	100.0	2	0	1	1	2	4.00	25.0
伯耆町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	15	0	15	15	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	14	3	10	13	92.9	1	0	1	7.69	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	1	1	0	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	29	0	26	26	89.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	896	8	798	806	90.0	1	22	23	2.85	19	82.6	7	4	2	6	12	0.74	26.1
東部	233	0	167	167	71.7	0	1	1	0.60	1	100.0	0	0	0	1	1	0.60	100.0
中部	226	3	205	208	92.0	0	8	8	3.85	6	75.0	2	3	0	1	4	0.48	12.5
西部	437	5	426	431	98.6	1	13	14	3.25	12	85.7	5	1	2	4	7	0.93	28.6

(5) 平成27年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度
異形成	25	18	130	128
頸癌0期	5	2	9	7
頸癌I a期	0	0	0	0
頸癌I b期以上	1	2	6	3
合計	31	22	145	138

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成26年度	平成27年度
内膜増殖症	3	6
体癌I A期	2	3
体癌I B期以上	1	5
合計	6	14

表3 発見子宮がん症例（I B期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	2	0	2
初回受診	0	3	3

表4 治療機関

	上皮内癌	頸癌I A期	頸癌I B期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	0	0	4	4
鳥取県立中央病院	8	0	0	8
ミオクリニック	1	0	0	1
他県医療機関	0	0	1	1
計	9	0	5	14

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成27年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）190,556人のうち、受診者数55,045人、受診率28.9%で前年度に比べ受診者数1,837人、受診率1.0ポイント増加した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数29,060人、受診率35.1%で、全国平均（平成26年度）16.4%に比べ高い。

このうち要精検者は2,092人、要精検率3.80%で前年度より211人、0.53ポイント減少した。精密検査受診者は1,877人、精検受診率89.7%で前年度よりそれぞれ144人減少、1.9ポイント増加した。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下をいまだに上回っているが、減少傾向にある。精検受診率は高く、その結果、肺がん34人（転移性肺がん1人含む）、がん疑い78人の計112人が発見された。肺がん発見率は0.06%で、前年度より21人（0.04%）減少した。これは国の指標（許容値）0.03%より2倍高率である。また、陽性反応適中度は1.6%となり、前年度より0.8ポイント減少したが、国の指標（許容値）1.3%を上回っている。平成27年度の肺がん発見率は久々に低値であったが、鳥取県は肺がん罹患率が高く、要精検率が高い中で多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられる。施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診4.5%、車検診3.1%であり、施設検診の方が1.4ポイント高く、特に西部地区の施設検診が5.9%と高率であった。要精検率には東・中・西部で地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

追跡調査の結果、確定肺がんは48人（原発性47人、転移性1人）で、確定がん率は0.09%となり、前年度よりも0.06%減少した。肺がん疑いの者は43人残っており、今後も定期的にフォローする方針である。

X線受診者総数55,045人のうち経年受診者は38,461人、経年受診率69.9%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は6,956人（12.6%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,574人で、X線検査受診者の4.7%であった。そのうち要精検者は2人、要精検率0.08%で、がんが2名発見された。

がん発見率は東部0.091%、中部0.017%、西部0.050%、陽性反応適中度は東部2.7%、中部0.5%、西部1.0%であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.018%で、非経年受診者のがん発見率0.163%で、非経年受診者の方が8.95倍高かった。また、高危険群所属者6,956人のうちがんが22人発見され、がん発見率0.316%、非高危険群所属者48,089人のうちがんが12人発見され、がん発見率0.025%で、高危険群所属者の方が12.67倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	27,876 (50.6%)	872	3.13	2.60	2.53	4.02
施 設 検 診 (病院・診療所)	27,169 (49.4%)	1,220	4.49	3.74	5.28	5.89
計	55,045 (100%)	2,092	3.80	3.36	3.26	4.77

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	754	86.5	9	0.032	0.071	0.000	0.028
施 設 検 診	1,123	92.0	25	0.092	0.101	0.065	0.083
計	1,877	89.7	34	0.062	0.091	0.017	0.050

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	8,506	221	2.60	188	85.1	10	6	0.071
中 部	8,541	216	2.53	175	81.0	7	0	0.000
西 部	10,829	435	4.02	391	89.9	18	3	0.028
計	27,876	872	3.13	754	86.5	35	9	0.032

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,834	630	3.74	586	93.0	29	17	0.101
中 部	3,086	163	5.28	146	89.6	11	2	0.065
西 部	7,249	427	5.89	391	91.6	3	6	0.083
計	27,169	1,220	4.49	1,123	92.0	43	25	0.092

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (%)		
	男	女	計	男	女	計
H25	19,836	30,733	50,569	13,065 (65.9%)	20,574 (66.9%)	33,639 (66.5%)
H26	21,008	32,200	53,208	14,462 (68.8%)	22,445 (69.7%)	36,907 (69.4%)
H27	21,707	33,338	55,045	15,133 (69.7%)	23,328 (70.0%)	38,461 (69.9%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H25	33,639	19	0.056	16,930	26	0.154	2.72
H26	36,907	21	0.057	16,301	34	0.209	3.67
H27	38,461	7	0.018	16,584	27	0.163	8.95

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（％）		
	男	女	計	男	女	計
H25	19,836	30,733	50,569	6,787 (34.2%)	422 (1.4%)	7,209 (14.3%)
H26	21,008	32,200	53,208	6,751 (32.1%)	404 (1.3%)	7,155 (13.4%)
H27	21,707	33,338	55,045	6,632 (30.6%)	324 (1.0%)	6,956 (12.6%)

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H25	7,209	14	0.194	43,360	31	0.071	2.72
H26	7,155	10	0.140	46,053	45	0.098	1.43
H27	6,956	22	0.316	48,089	12	0.025	12.67

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年 度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
H25	7,209	2,610	2	0.08	0	0	0.000
H26	7,155	2,566	4	0.16	3	2	0.078
H27	6,956	2,574	2	0.08	2	2	0.078

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H25	45	45	0	0
H26	55	53	2	0
H27	34	32	1	1

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成27年までの28年間における発見肺がんは1,267人（発見率10万対77人）であった。発見方法は胸部X線1,164人（91.9%）、喀痰細胞診56人、両者45人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は72.0歳、男性756人、女性511人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が727人（57.4%）で過半数を占め、795人（62.7%）に手術が行われた。予後調査では全例（1,267人）の累積生存率は5生率49.8%、10生率33.3%であり、手術例では5生率68.9%、10生率50.0%であった。臨床病期I A期の5生率は77.2%、10生率は57.4%と良好な結果を示した。

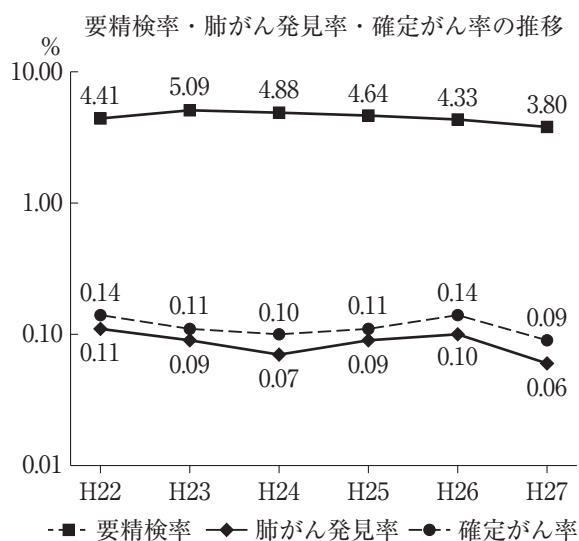
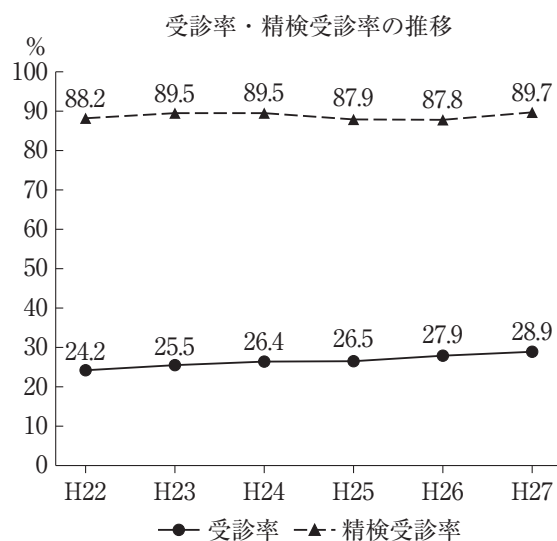
2) 平成27年度調査結果

原発性肺がん47人が発見され、発見率は人口10万対85人であった。45人（95.7%）が胸部X線で、1人（2.1%）が喀痰細胞診、1人（2.1%）が胸部X線と喀痰細胞診で発見された。原発性肺がんの平均年齢は71.0歳、女性は13例（27.7%）、臨床病期はI期24人（51.1%）、腺癌は33人（70.2%）と例年に比べていずれも減少した。手術症例は29人（61.7%）と減少し、術後病期I期の肺がんが18人（62.1%）、腺がんが23人（79.3%）で両者の割合も減少した。腫瘍径は平均30.4mmと前年より3.7mm大きく、20mm以下は16人（34.0%）で、前年度より3.8%ポイント減少した。本年度は例年よりも進行した肺がんの割合が高かった。転移性肺腫瘍は1人で、原発巣は卵管肉腫であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一次検診	対象者数(人) A	188,186	190,556	190,556	190,556	190,556	190,556
	受診者数(人) B	45,482	48,513	50,376	50,569	53,208	55,045
	受診率(%) C = B/A	24.2	25.5	26.4	26.5	27.9	28.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	43,478	46,046	47,916	48,225	50,905	52,953
	要精検者数(人) E	2,004	2,467	2,460	2,345	2,303	2,092
	要精検率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	4.41	5.09	4.88	4.64	4.33	3.80
精密検査	精検受診者数(人) G	1,767	2,208	2,201	2,062	2,021	1,877
	精検受診率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	88.2	89.5	89.5	87.9	87.8	89.7
精密検査結果	肺がんの者(人) I	50 (67)	44 (70)	35 (58)	45 (68)	55 (74)	34 (78)
	肺がん発見率(%) J = I/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.11	0.09	0.07	0.09	0.10	0.06
	陽性反応適中度(%) K = I/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	2.5	1.8	1.4	1.9	2.4	1.6
確定調査結果	確定がん数(人) L	69	61	54	62	81	48
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	65	55	49	58	74	47
	確定がん率(%) N = M/B	0.14	0.11	0.10	0.11	0.14	0.09

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上。転移性肺がんも含む。
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上。
- * 5 要精検者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者数を計上。



(2) 平成27年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果					
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診 者 割 合 (%)		要精検者数		異常認めず		要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a		d		e = d/b		f		g = f/b					
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	782	1,467	36.2	36.2	36.2	279	515	35.7	35.1	17	20	765	1,447	2.17	1.36	1.65
45～49歳	2,326	3,853	612	1,215	26.3	31.5	29.6	299	580	48.9	47.7	18	23	594	1,192	2.94	1.89	2.24
50～54歳	3,058	4,974	679	1,468	22.2	29.5	26.7	343	764	50.5	52.0	19	30	660	1,438	2.80	2.04	2.28
55～59歳	4,908	8,189	961	2,279	19.6	27.8	24.7	552	1,339	57.4	58.8	29	69	932	2,210	3.02	3.03	3.02
60～64歳	9,854	13,797	2,676	4,447	27.2	32.2	30.1	1,577	2,940	58.9	66.1	117	129	2,559	4,318	4.37	2.90	3.45
65～69歳	11,061	14,574	5,246	7,228	47.4	49.6	48.7	3,685	5,349	70.2	74.0	218	209	5,028	7,019	4.16	2.89	3.42
70～74歳	11,588	16,049	4,145	5,631	35.8	35.1	35.4	3,177	4,343	76.6	77.1	212	198	3,933	5,433	5.11	3.52	4.19
75～79歳	11,797	17,672	3,287	4,751	27.9	26.9	27.3	2,584	3,741	78.6	78.7	158	197	3,129	4,554	4.81	4.15	4.42
80歳以上	15,558	35,092	3,319	4,852	21.3	13.8	16.1	2,637	3,757	79.5	77.4	193	235	3,126	4,617	5.82	4.84	5.24
計	72,308	118,248	21,707	33,338	30.0	28.2	28.9	15,133	23,328	69.7	70.0	981	1,110	20,726	32,228	4.52	3.33	3.80
合計	190,556		55,045		28.9			38,461		69.9		2,091		52,954		3.80		

※経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者※		喀痰細胞診 受診者数		喀痰細胞診結果					
					要精検者数		精 検 不 要		要精検率 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	3	0	10	5	0	0	10	5	0.00	0.00
45～49歳	3	1	13	2	0	0	13	2	0.00	0.00
50～54歳	190	30	61	14	0	0	61	14	0.00	0.00
55～59歳	308	38	114	12	0	0	114	12	0.00	0.00
60～64歳	1,019	62	396	21	1	0	395	21	0.25	0.00
65～69歳	2,003	93	724	44	0	0	724	44	0.00	0.00
70～74歳	1,402	57	542	32	1	0	541	32	0.18	0.00
75～79歳	906	26	308	25	0	0	308	25	0.00	0.00
80歳以上	798	17	243	8	0	0	243	8	0.00	0.00
計	6,632	324	2,411	163	2	0	2,409	163	0.08	0.00
合 計	6,956		2,574		2		2,572		0.08	

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m=l/k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o=n/b			p=n/k		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	17	20	15	16	88.2	80.0	83.8	10	12	5	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	18	23	11	20	61.1	87.0	75.6	4	18	7	2	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	19	30	16	26	84.2	86.7	85.7	13	16	3	6	0	3	0	1	0.000	0.068	0.047	0.0	3.3	2.0
55～59歳	29	69	21	60	72.4	87.0	82.7	13	33	7	24	0	2	1	1	0.104	0.044	0.062	3.4	1.4	2.0
60～64歳	117	129	97	116	82.9	89.9	86.6	49	69	42	45	2	1	4	1	0.149	0.022	0.070	3.4	0.8	2.0
65～69歳	218	209	197	200	90.4	95.7	93.0	98	85	81	101	10	12	8	2	0.152	0.028	0.080	3.7	1.0	2.3
70～74歳	213	198	188	186	88.3	93.9	91.0	78	73	95	106	10	6	5	1	0.121	0.018	0.061	2.3	0.5	1.5
75～79歳	158	197	142	190	89.9	96.4	93.5	58	74	73	108	6	5	5	3	0.152	0.063	0.100	3.2	1.5	2.3
80歳以上	193	235	167	209	86.5	88.9	87.9	57	91	100	105	8	13	2	0	0.060	0.000	0.024	1.0	0.0	0.5
計	982	1,110	854	1,023	87.0	92.2	89.7	380	471	413	501	36	42	25	9	0.115	0.027	0.062	2.5	0.8	1.6
合計	2,092		1,877		89.7			851		914		78		34		0.062			1.6		
X線のみ要精検	2,090		1,875		89.7			851		914		78		32		/			1.5		
喀痰のみ要精検	1		1		100.0			0		0		0		1					100.0		
X線+喀痰要精検	1		1		100.0			0		0		0		1					100.0		

3) 検診機関別

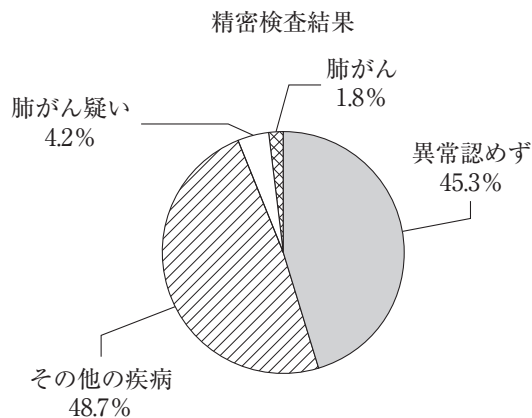
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率 (%) c'=b'/a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	10,091	16,967	7,379	12,436	378	464	9,713	16,503	3.75	2.73	3.11	3,013	140
中国労働衛生協会	323	495	262	412	9	21	314	474	2.79	4.24	3.67	36	1
病 院	3,869	5,403	2,497	3,401	215	215	3,654	5,188	5.56	3.98	4.64	1,062	51
診 療 所	7,424	10,473	4,995	7,079	379	410	7,045	10,063	5.11	3.91	4.41	2,521	132
計	21,707	33,338	15,133	23,328	981	1,110	20,726	32,228	4.52	3.33	3.80	6,632	324
合 計	55,045		38,461		2,091		52,954		3.80			6,956	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診も精検		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率 (%)				要精検者数		要精検率 (%)		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
保健事業団	956	90	0	0	956	90	0.00	0.00	0	0	378	464	3.75	2.73	3.11
中国労働衛生協会	28	0	0	0	28	0	0.00	0.00	0	0	9	21	2.79	4.24	3.67
病院	477	23	1	0	476	23	0.21	0.00	1	0	215	215	5.56	3.98	4.64
診療所	950	50	1	0	949	50	0.11	0.00	0	0	380	410	5.12	3.91	4.41
計	2,411	163	2	0	2,409	163	0.08	0.00	1	0	982	1,110	4.52	3.33	3.80
合計	2,574		2		2,572		0.08		1		2,092		3.80		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	316	411	83.6	88.6	86.3	137	185	158	204	15	19	6	3	0.059	0.018	0.033	1.6	0.6	1.1
中国労働衛生協会	9	18	100.0	85.7	90.0	4	6	4	12	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	185	201	86.0	93.5	89.8	83	90	85	104	9	4	8	3	0.207	0.056	0.119	3.7	1.4	2.6
診療所	344	393	90.5	95.9	93.3	156	190	166	181	11	19	11	3	0.148	0.029	0.078	2.9	0.7	1.8
計	854	1,023	87.0	92.2	89.7	380	471	413	501	36	42	25	9	0.115	0.027	0.062	2.5	0.8	1.6
合計	1,877		89.7			851		914		78		34		0.062			1.6		



4) 平成27年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診 者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異 認め ず L	常 その 他の 疾 病 M	がん 疑 い が N	人 有 所 見 者 P=M+N+O	がん 発 見 率 (%) Q=O/D	陽 性 反 応 適 中 度 (%) R=O/H	
鳥取市	57,433	3,977	15,406	19,383	33.7	111	583	694	3.58	635	91.5	300	286	32	17	335	0.088	2.4
米子市	42,442	3,902	5,024	8,926	21.0	135	267	402	4.50	371	92.3	183	174	9	5	188	0.056	1.2
倉吉市	17,700	1,559	1,803	3,362	19.0	43	89	132	3.93	117	88.6	54	57	5	1	63	0.030	0.8
境港市	11,307	1,475	1,035	2,510	22.2	68	68	136	5.42	125	91.9	39	83	2	1	86	0.040	0.7
岩美町	4,844	1,261	257	1,518	31.3	41	14	55	3.62	47	85.5	28	14	3	2	19	0.132	3.6
八頭町	6,534	2,594	390	2,984	45.7	44	11	55	1.84	49	89.1	19	24	3	3	30	0.101	5.5
若桜町	1,776	326	242	568	32.0	11	5	16	2.82	16	100.0	6	10	0	0	10	0.000	0.0
智頭町	3,263	348	539	887	27.2	14	17	31	3.49	27	87.1	18	7	1	1	9	0.113	3.2
湯梨浜町	5,964	1,786	679	2,465	41.3	41	36	77	3.12	70	90.9	29	33	7	1	41	0.041	1.3
三朝町	2,767	965	140	1,105	39.9	31	12	43	3.89	38	88.4	20	17	1	0	18	0.000	0.0
北栄町	5,729	1,856	372	2,228	38.9	38	20	58	2.60	46	79.3	24	21	1	0	22	0.000	0.0
琴浦町	7,221	2,375	92	2,467	34.2	63	6	69	2.80	50	72.5	20	26	4	0	30	0.000	0.0
南部町	4,221	522	1,190	1,712	40.6	24	92	116	6.78	102	87.9	40	59	1	2	62	0.117	1.7
伯耆町	4,533	1,600	0	1,600	35.3	77	0	77	4.81	63	81.8	20	41	1	1	43	0.063	1.3
日吉津村	995	230	0	230	23.1	5	0	5	2.17	5	100.0	3	2	0	0	2	0.000	0.0
大山町	7,503	1,426	0	1,426	19.0	61	0	61	4.28	59	96.7	27	28	4	0	32	0.000	0.0
日南町	2,966	642	0	642	21.6	17	0	17	2.65	15	88.2	4	9	2	0	11	0.000	0.0
日野町	1,783	328	0	328	18.4	20	0	20	6.10	17	85.0	8	8	1	0	9	0.000	0.0
江府町	1,575	704	0	704	44.7	28	0	28	3.98	25	89.3	9	15	1	0	16	0.000	0.0
合 計	190,556	27,876	27,169	55,045	28.9	872	1,220	2,092	3.80	1,877	89.7	851	914	78	34	1,026	0.062	1.6
東 部	73,850	8,506	16,834	25,340	34.3	221	630	851	3.36	774	91.0	371	341	39	23	403	0.091	2.7
中 部	39,381	8,541	3,086	11,627	29.5	216	163	379	3.26	321	84.7	147	154	18	2	174	0.017	0.5
西 部	77,325	10,829	7,249	18,078	23.4	435	427	862	4.77	782	90.7	333	419	21	9	449	0.050	1.0

(3) 平成27年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,267、転移性141） 1,408例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,420例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
原発性肺癌	53	40	41	42	30	48	65	50	57	62
転移性肺腫瘍	2	7	7	6	7	6	3	2	5	6
合 計	55	47	48	48	37	54	68	52	62	68

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	合計
原発性肺癌	48	52	41	65	55	49	58	74	47	1,267
転移性肺腫瘍	7	3	8	4	6	5	4	7	1	141
合 計	55	55	49	69	61	54	62	80	48	1,408

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H27年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,164例(91.9%)	Dのみ	0例	} 45例(95.7%)	(E1:38例、E2:7例)
	Eのみ	919例		Eのみ	45例		
細 胞 診	Dのみ	21例	} 56例(4.4%)	Dのみ	1例	} 1例(2.1%)	
	Eのみ	35例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 45例(3.5%)	D + D	0例	} 1例(2.1%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	20例		E + E	1例		
	不明	2例	} 2例(0.2%)	不明	0例	} 0例(0.0%)	
計 1,267例				計 47例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(88.0%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
計	1,635,448	28,792(1.76%)	24,920(86.6%)	1,267	77

4) 原発性肺癌 (1,267例)

(1) 年齢・性別

[H27年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	81例	6.4
60～69歳	384	30.3
70～79歳	585	46.2
80～	217	17.1
計	1,267	100.0

平均年齢=72.0
男：女=756例：511例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	3例	6.4
60～69歳	16	34.1
70～79歳	23	48.9
80～	5	10.6
計	47	100.0

平均年齢=71.0
男：女=34例：13例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H27年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	524(41.4)
I B	201
II A	52
II B	66
III A	151
III B	82
IV	155
不明	34
計	1,267

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	16(34.0)
I B	8
II A	5
II B	0
III A	3
III B	8
IV	6
不明	1
計	47

} 24
(51.1%)

b. 組織型

〔H27年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	283例
腺癌	779(61.5)
大細胞癌	17
小細胞癌	76
腺扁平上皮癌	12
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	100
計	1,269*

組織型	(%)
扁平上皮癌	10例
腺癌	33(70.2)
大細胞癌	0
小細胞癌	4
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	47

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

〔H27年度集計〕

(795例、手術率：62.7%)

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(29例、手術率：61.7%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	460(57.9)	I A	407(51.2)
I B	164	I B	176
II A	32	II A	38
II B	40	II B	48
III A	73	III A	81
III B	15	III B	24
IV	8	IV	18
不明	1	不明	1
計	795	計	795

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	14(48.3)	I A	14(48.3)
I B	8	I B	4
II A	3	II A	3
II B	0	II B	0
III A	1	III A	5
III B	1	III B	1
IV	1	IV	1
不明	1	不明	1
計	29	計	29

} 18
(62.1%)

b. 組織型分類

〔27年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	159例
腺癌	583(73.3)
大細胞癌	13
小細胞癌	9
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	795

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	23(79.3)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	29

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)
0～10	3	2	2	1	4	3	3	0
11～20	21(40.4)	10	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)
21～30	6	13(31.7)	26(40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8
31～40	14	8	15	6	8	8	7	14
41～50	5	6	6	4	6	5	6	6
51～	1	2	2	11	2	6	5	3
不明	2	0	1	1	2	0	4	0
計	52	41	65	55	49	58	74	47
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7	30.4
	最高71mm	68mm	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm

5) 転移性肺腫瘍 (141例)

大腸癌：31例 乳癌：18例 前立腺癌：13例 甲状腺癌：11例 腎臓癌：11例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管管：4例 胆のう癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例 卵巣癌：2例
 膀胱癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 不明：7例

〔H27年度集計〕(1例)

卵管肉腫：1例

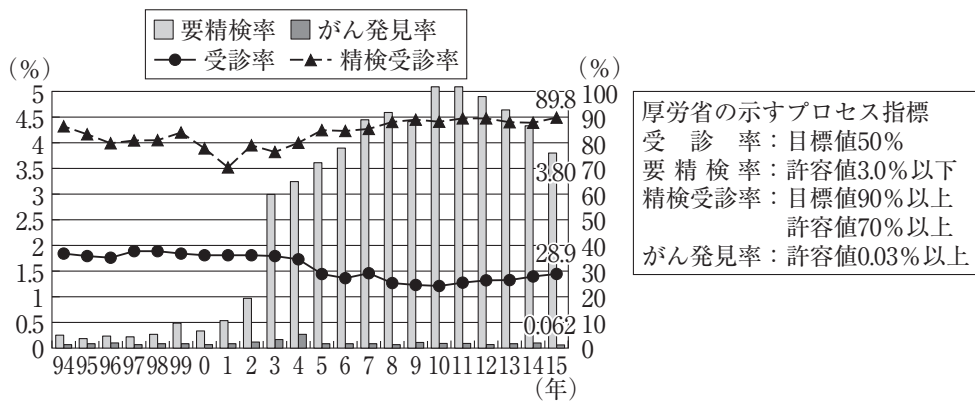
平成27年度肺がん検診で発見された肺がん症例の特徴

1. 受診者数は昨年より1,837名増加し、受診率は28.9%と昨年より1.0ポイント増加した。要精検率は3.80%（-0.53%）と減少、精検受診率は89.7%（1.9%）と増加した。肺がんは34名（-21名）発見され、がん発見率は0.062%（-0.041%）、陽性反応適中度1.6%（-0.8%）と昨年を下回り、近年では最低値であった。
2. 予後調査では原発性肺がん47例、転移性肺腫瘍1例、合計48例の肺がん確定診断を得て、久々の低値であった。最終報告で78名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により肺がんが14名発見され、肺がん疑いのままが43名、良性が6名、異常なしが10名、現在なお調査中が5名という結果であった。肺がん疑いと調査中の48名は今後2年間フォローを続ける予定である。
3. 発見された原発性肺がんの47例中45例（95.7%）が胸部X線で見え、喀痰細胞診で見えなかった肺がんは1例（2.1%）、両者から発見された肺がんは1例（2.1%）であった。
4. 原発性肺がんの平均年齢は71.0歳、女性肺がんは13例（27.7%）、臨床病期はI期24例（51.1%）、腺癌は33例（70.2%）と前年より年齢は若く、I期肺がん、女性肺がん、腺癌の割合が減少した。
5. 手術症例の割合は29例（61.7%）と減少し、術後病期I期の肺がんは18例（62.1%）、腺癌が23例（79.3%）となり、いずれも前年よりも減少した。
6. 腫瘍径は平均30.4mm（3.7mm）と昨年より大きくなった。11-20mmが16例（34.0%）と最多で、20mm以下も同数で、前年より7.9%減少した。
7. 転移性肺腫瘍は1例で、原発巣は卵管肉腫であった。

6) 平成27年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

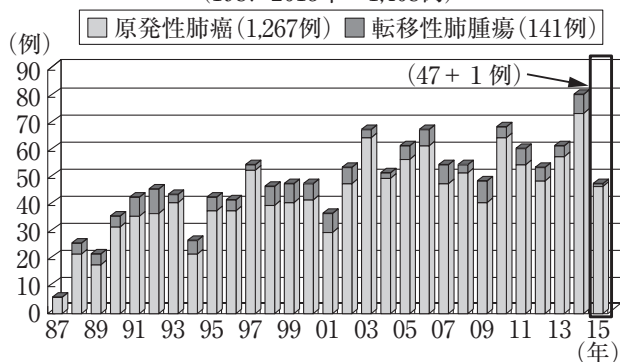
	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	27,876	27,169
要精検数	872 (3.1%) 東部：221 (2.6%) 中部：216 (2.5%) 西部：435 (4.0%)	1,220 (4.5%) 東部：630 (3.7%) 中部：163 (5.3%) 西部：427 (5.9%)
確定者数	17名 (0.061%) (東部7、中部1、西部9)	30名 (0.110%) (東部21、中部2、西部7)
発見方法	E1判定 17名	E1判定 21名 E2判定 7名 E1+喀痰E 1名 喀痰D判定 1名
年 齢	71.4歳	70.6歳
性 差	男11名、女6名	男23名、女7名
臨床病期	I A 7名、I B 3名 II A 1名、II B 0名 III A 1名、III B 4名 IV 0名、不明 1名	I A 9名、I B 5名 II A 4名、II B 0名 III A 2名、III B 4名 IV 6名
組 織 型	扁平上皮癌5名、腺癌11名 大細胞癌0名、小細胞癌1名、	扁平上皮5名、腺癌22名 大細胞癌0名、小細胞癌3名
手 術	あり13名、なし4名	あり16名、なし14名
腫瘍径	33.2mm	28.8mm

7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



8) 検診で発見された肺癌の推移

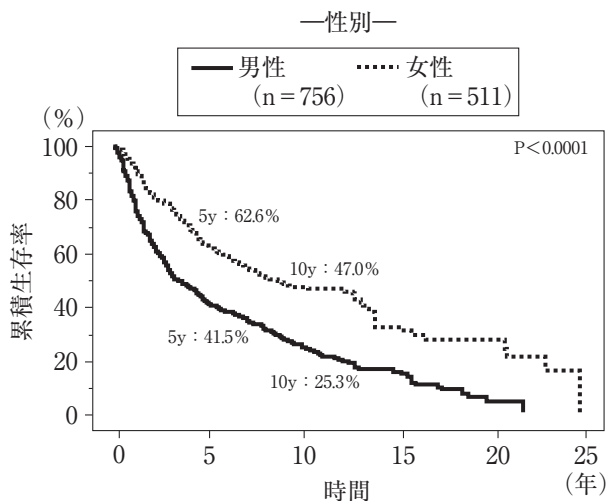
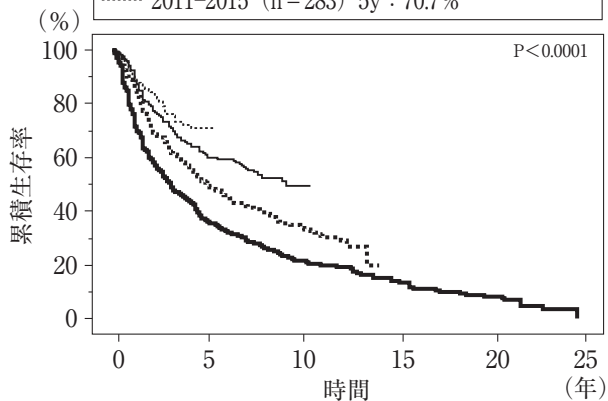
(1987-2015年：1,408例)



9) 検診発見肺癌の予後

—年代別—

—性別—



4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成27年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は118,248人で、受診者数は20,666人、受診率17.5%で前年度より1.5ポイント上昇した。2年合わせた最終受診率は32.3%であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数49,435人、受診者数16,191人、受診率32.8%で、全国平均（平成26年度）26.8%に比べ高い。

要精検者数1,689人、要精検率8.17%で前年度より0.82ポイント上昇した。精検受診者数1,609人、精検受診率は95.3%で、前年度より3.2ポイント上昇した。

精検の結果、乳がん91人、がん発見率（がん/受診者数）0.44%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）5.39%であり、患者数で1人、がん発見率は0.05ポイント減少した。検診受診率は近年上昇傾向であり、国の目標値との比較では、要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度では、いずれも達成できていた。圏域別では中部地区の検診受診率が東西部に比較してわずかに低かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診（視触診、マンモグラフィ併用）

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)
車 検 診 (保健事業団、中国労働衛生協会)	9,264 (44.8%)	663	7.16
施 設 検 診 (病院、診療所)	11,402 (55.2%)	1,026	9.00
計	20,666 (100%)	1,689	8.17

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	634	95.6	31	0.33
施 設 検 診	975	95.0	60	0.53
計	1,609	95.3	91	0.44

〈圏域別結果〉

(1) 視触診・マンモグラフィー併用

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	8,210	17.91	524	6.38	498	95.0	27	0.33
中 部	23,902	3,827	16.01	288	7.53	279	96.9	12	0.31
西 部	48,513	8,629	17.79	877	10.16	832	94.9	52	0.60
計	118,248	20,666	17.48	1,689	8.17	1,609	95.3	91	0.44

(2) 視触診のみ (参考)

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00
中 部	23,902	9	0.04	0	0.00	0	0	0	0.00
西 部	48,513	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00
計	118,248	9	0.01	0	0.00	0	0	0	0.00

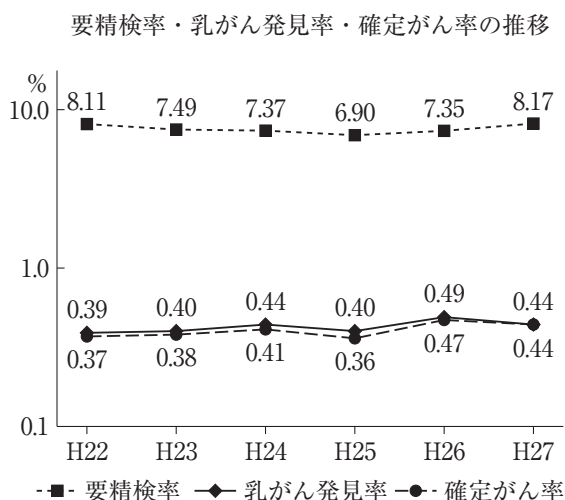
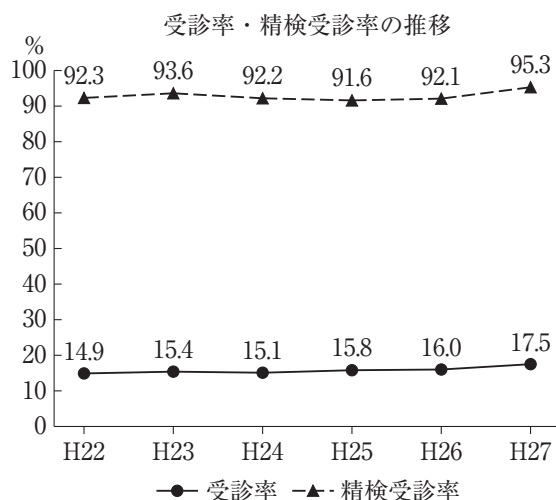
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成27年度の確定乳がんは90例で、このうち非浸潤癌は12例であった。平均年齢は63.1歳で、60代の患者数が最も多く、増加傾向であった。早期癌の割合は74.4%であり、早期癌患者の比率が前年度より上昇した。触診のみで発見された乳がんは5例(5.6%)で、前年度より減少した。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	118,676	118,248	118,248	118,248	118,248	118,248
	受 診 者 数(人) B	17,726	18,194	17,818	18,715	18,959	20,666
	受 診 率(%) C = B/A	30.1	29.3	29.2	29.6	30.5	32.3
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	16,288	16,832	16,504	17,423	17,566	18,977
	要 精 検 者 数(人) E	1,438	1,362	1,314	1,292	1,393	1,689
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	8.11	7.49	7.37	6.90	7.35	8.17
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,327	1,275	1,211	1,184	1,283	1,609
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	92.3	93.6	92.2	91.6	92.1	95.3
精 密 検 査 結 果	乳 がん の 者(人) I	70(2)	72(3)	78(1)	74(2)	92(5)	91(3)
	乳 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.39	0.40	0.44	0.40	0.49	0.44
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	4.87	5.29	5.94	5.73	6.60	5.39
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	65	69 (70)	73	67	90	90
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.37	0.38	0.41	0.36	0.47	0.44

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。平成20年度報告より視・マンモ併用検診で発見された数。()内の数値は、視触診のみ検診で発見された数を含んだ数。



(2) 平成27年度乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモともに要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	4,048	2,889	71.4	326	2,563	11.28	62	2.15	217	7.51	47	1.63
45～49歳	3,853	1,945	50.5	239	1,706	12.29	37	1.90	178	9.15	24	1.23
50～54歳	4,974	2,395	48.2	210	2,185	8.77	29	1.21	155	6.47	26	1.09
55～59歳	8,189	2,221	27.1	179	2,042	8.06	23	1.04	150	6.75	6	0.27
60～64歳	13,797	3,348	24.3	215	3,133	6.42	33	0.99	163	4.87	19	0.57
65～69歳	14,574	3,393	23.3	236	3,157	6.96	34	1.00	186	5.48	16	0.47
70～74歳	16,049	2,348	14.6	155	2,193	6.60	27	1.15	117	4.98	11	0.47
75～79歳	18,231	1,361	7.5	79	1,282	5.80	19	1.40	56	4.11	4	0.29
80歳以上	34,533	766	2.2	50	716	6.53	8	1.04	37	4.83	5	0.65
計	118,248	20,666	17.5	1,689	18,977	8.17	272	1.32	1,259	6.09	158	0.76

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 l	精検受診率 (%) m=l/d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) o=n/b	陽性反応 適 中 度 (%) p=n/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	303	92.9	129	162	0	12	0.42	3.68
45～49歳	227	95.0	101	122	1	3	0.15	1.26
50～54歳	199	94.8	99	92	0	8	0.33	3.81
55～59歳	176	98.3	94	74	0	8	0.36	4.47
60～64歳	210	97.7	128	68	0	14	0.42	6.51
65～69歳	230	97.5	127	82	2	19	0.56	8.05
70～74歳	149	96.1	95	44	0	10	0.43	6.45
75～79歳	70	88.6	40	22	0	8	0.59	10.13
80歳以上	45	90.0	25	11	0	9	1.17	18.00
計	1,609	95.3	838	677	3	91	0.44	5.39

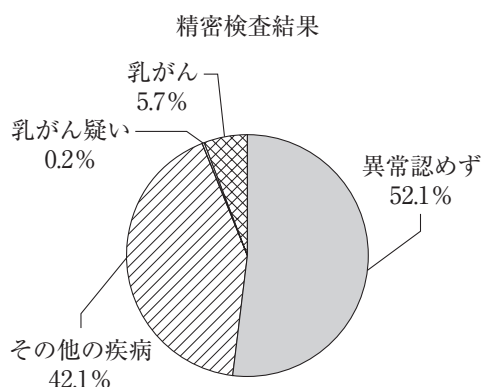
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c'=b'/a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず			要精検者数 d'	要精検率 (%) e'=d'/a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g'=f'/a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i'=h'/a'
保健事業団	9,165	660	8,505	7.20	77	0.84	552	6.02	31	0.34	
病 院	9,566	862	8,704	9.01	188	1.97	568	5.94	106	1.11	
診 療 所	1,836	164	1,672	8.93	7	0.38	136	7.41	21	1.14	
中国労働衛生協会	99	3	96	3.03	0	0.00	3	3.03	0	0.00	
計	20,666	1,689	18,977	8.17	272	1.32	1,259	6.09	158	0.76	

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'	精検受診率 (%) k'=j'/b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) m'=l'/a'	陽性反応 適 中 度 (%) n'=l'/b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	631	95.6	368	231	1	31	0.34	4.70
病 院	814	94.4	401	364	1	48	0.50	5.57
診 療 所	161	98.2	68	80	1	12	0.65	7.32
中国労働衛生協会	3	100.0	1	2	0	0	0.00	0.00
計	1,609	95.3	838	677	3	91	0.44	5.39



4) 平成27年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率 (%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見 率 (%)	陽性反応 適中度 (%)
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	35,982	2,764	3,607	6,371	17.7	168	272	440	6.91	416	94.5	256	139	0	21	160	0.33	4.8
米子市	27,227	838	3,799	4,637	17.0	96	384	480	10.35	466	97.1	190	243	2	31	276	0.67	6.5
倉吉市	10,891	685	667	1,352	12.4	43	74	117	8.65	116	99.1	66	44	0	6	50	0.44	5.1
境港市	6,968	386	970	1,356	19.5	39	108	147	10.84	140	95.2	72	62	0	6	68	0.44	4.1
岩美町	2,913	108	394	502	17.2	4	10	14	2.79	13	92.9	7	6	0	0	6	0.00	0.0
八頭町	3,918	721	102	823	21.0	32	8	40	4.86	39	97.5	24	13	0	2	15	0.24	5.0
若桜町	1,071	182	14	196	18.3	8	0	8	4.08	8	100.0	4	4	0	0	4	0.00	0.0
智頭町	1,949	139	179	318	16.3	10	12	22	6.92	22	100.0	12	6	0	4	10	1.26	18.2
湯梨浜町	3,566	532	182	714	20.0	31	15	46	6.44	45	97.8	24	18	1	2	21	0.28	4.3
三朝町	1,666	167	42	209	12.5	13	4	17	8.13	16	94.1	6	9	0	1	10	0.48	5.9
北栄町	3,404	561	83	644	18.9	40	8	48	7.45	47	97.9	36	10	0	1	11	0.16	2.1
琴浦町	4,375	710	198	908	20.8	35	25	60	6.61	55	91.7	30	23	0	2	25	0.22	3.3
南部町	2,567	281	433	714	27.8	27	38	65	9.10	60	92.3	33	23	0	4	27	0.56	6.2
伯耆町	2,798	312	185	497	17.8	43	16	59	11.87	53	89.8	31	20	0	2	22	0.40	3.4
日吉津村	633	89	74	163	25.8	5	13	18	11.04	18	100.0	4	14	0	0	14	0.00	0.0
大山町	4,483	370	236	606	13.5	27	26	53	8.75	46	86.8	20	20	0	6	26	0.99	11.3
日南町	1,773	226	33	259	14.6	31	3	34	13.13	32	94.1	18	14	0	0	14	0.00	0.0
日野町	1,096	193	0	193	17.6	11	0	11	5.70	7	63.6	2	5	0	0	5	0.00	0.0
江府町	968	0	204	204	21.1	0	10	10	4.90	10	100.0	3	4	0	3	7	1.47	30.0
合計	118,248	9,264	11,402	20,666	17.5	663	1,026	1,689	8.17	1,609	95.3	838	677	3	91	771	0.44	5.4
東部	45,833	3,914	4,296	8,210	17.9	222	302	524	6.38	498	95.0	303	168	0	27	195	0.33	5.2
中部	23,902	2,655	1,172	3,827	16.0	162	126	288	7.53	279	96.9	162	104	1	12	117	0.31	4.2
西部	48,513	2,695	5,934	8,629	17.8	279	598	877	10.16	832	94.9	373	405	2	52	459	0.60	5.9

【参考】

平成27年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	2	0	2	0.00
45 ～ 49 歳	3	0	3	0.00
50 ～ 54 歳	0	0	0	0.00
55 ～ 59 歳	1	0	1	0.00
60 ～ 64 歳	0	0	0	0.00
65 ～ 69 歳	2	0	2	0.00
70 ～ 74 歳	1	0	1	0.00
75 ～ 79 歳	0	0	0	0.00
80 歳 以 上	0	0	0	0.00
計	9	0	9	0.00

・ 検診機関別

検 診 機 関	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
保健事業団	0	0	0	0.00
病 院	0	0	0	0.00
診 療 所	9	0	9	0.00
そ の 他	0	0	0	0.00
計	9	0	9	0.00

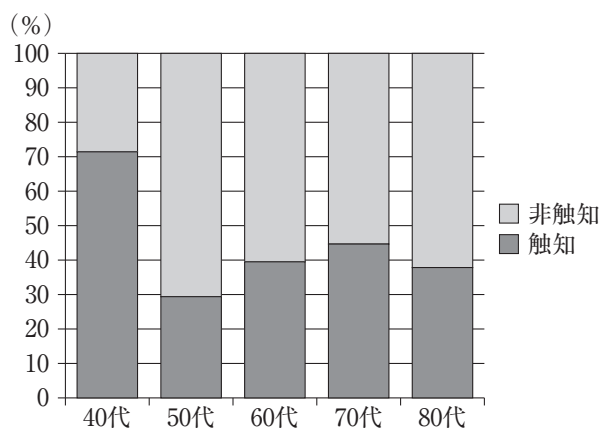
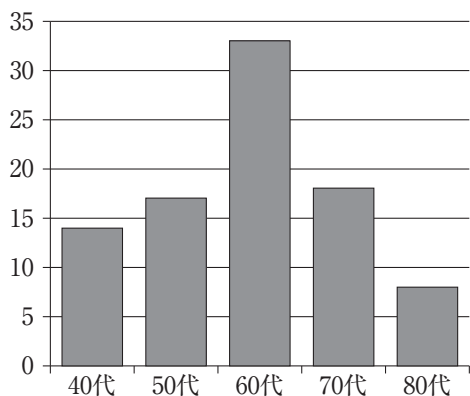
(3) 平成27年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 94

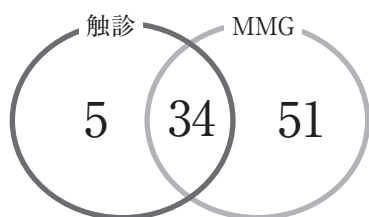
組織学的に確定された乳癌 90

鳥取市 20例 米子市 31例 倉吉市 6例 境港市 6例
 智頭町 4例 八頭町 2例 三朝町 1例 湯梨浜町 3例 琴浦町 2例
 北栄町 1例 大山町 6例 南部町 3例 伯耆町 2例
 江府町 3例

2) 年齢構成 平均年齢：63.1歳

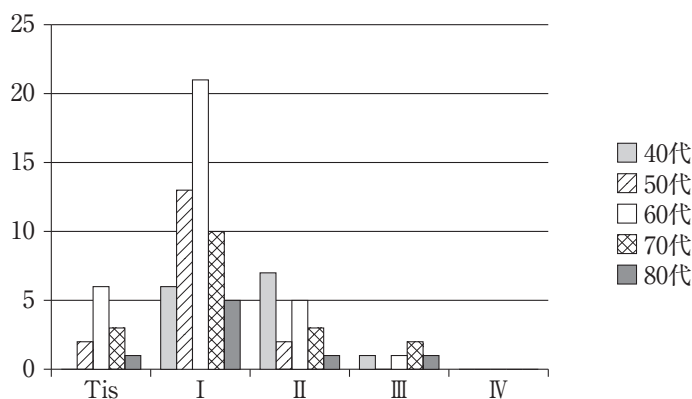
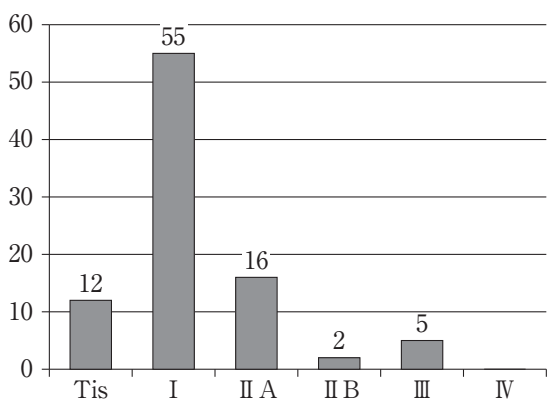


3) 触診とMMGの結果



検診発見乳癌90例中5例が視触診のみで発見されている。

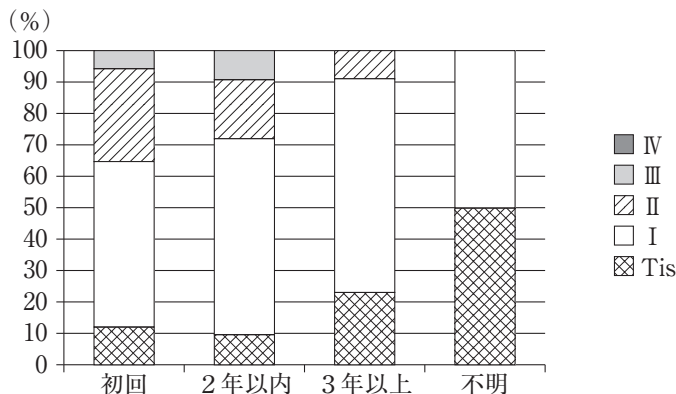
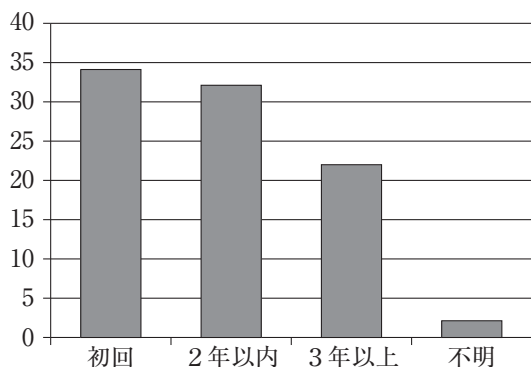
4) 病期分類



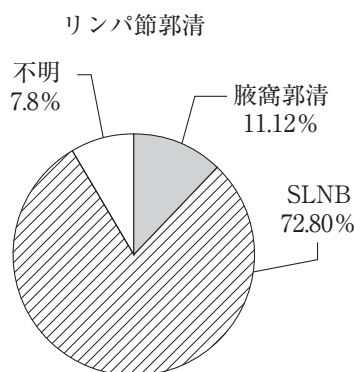
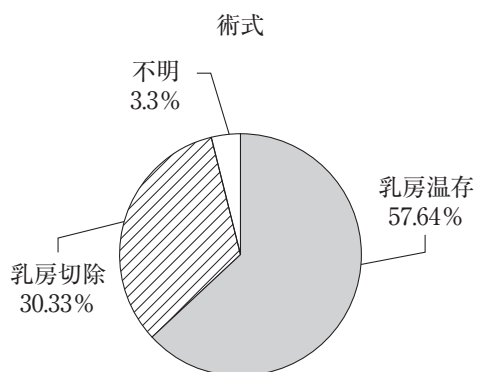
5) 組織型

非浸潤癌 12例 浸潤性乳管癌 67例 特殊型 11例

6) 検診歴と病期



7) 手術療法



8) その他の治療

化学療法単独(T-mab)	9例
内分泌療法	60例
化学+内分泌	9例
薬物療法なし・不明	6例
放射線治療	57例

まとめ

1. 平成27年度の確定乳癌は現時点で90例で前年度と同じであった。60代の患者の増加が顕著であり、患者の平均年齢もやや上昇した。
2. 非浸潤癌は12例、Stage Iが55例で、早期癌の比率は74.4%であった。近年、早期癌比率は上昇傾向にある。
3. 乳癌患者の中で触診で要精査となった症例は39例（43.3%）であり、触診のみで発見された乳癌は5例（5.6%）であった。触診のみで発見される乳癌の比率は低下しているが40代のみは触知できる乳癌の率が高かった。
4. 全体として早期乳癌の比率が高いため、検診歴と早期乳癌比率に関連を認めなかった。
5. 術式、リンパ節郭清に関しては、前年度とほぼ同様であった。
6. 検診発見癌で内分泌療法を受けた割合は69例（76.7%）であった。化学療法は18例（20.0%）で行われており、昨年30例と比較して減少していた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成27年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、このうち受診者数は60,329人、受診率は31.7%で、前年度に比べ受診者数2,827人、受診率は1.5ポイント増加した。平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向にある。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数82,800人、受診者数33,912人、受診率41.0%で、全国平均（平成26年度）受診率19.5%に比較し高い。

このうち要精検者数は5,519人、要精検率9.15%で、平成26年度より0.03ポイント減少となったが、プロセス指標の目標値である7.0%を上回っている。要精検者のうち精密検査を受診したのは4,253人、精検受診率は77.1%（前年度比0.4ポイント増）で、プロセス指標の目標値90%は下回るが許容値の70%以上は維持されている。また、精検の結果、大腸がんであった者が166人で、がん発見率は0.28%（前年度比0.01ポイント増）、陽性反応適中度は前年度と同率の3.0%であり、いずれもプロセス指標の許容値は上回っている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	23,730 (39.3%)	1,764	7.4	7.5	7.5	7.2
施設検診 (病院・診療所)	36,599 (60.7%)	3,755	10.3	9.3	12.4	10.8
計	60,329 (100%)	5,519	9.1	8.7	8.8	9.8

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
地域検診	1,330	75.4	51	0.215	0.255	0.153	0.241
施設検診	2,923	77.8	115	0.314	0.345	0.065	0.330
計	4,253	77.1	166	0.275	0.314	0.130	0.305

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	8,618	649	7.5	498	76.7	0	22	0.255
中 部	8,476	635	7.5	464	73.1	1	13	0.153
西 部	6,636	480	7.2	368	76.7	1	16	0.241
計	23,730	1,764	7.4	1,330	75.4	2	51	0.215

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,534	1,532	9.3	1,201	78.4	2	57	0.345
中 部	3,089	382	12.4	274	71.7	0	2	0.065
西 部	16,976	1,841	10.8	1,448	78.7	10	56	0.330
計	36,599	3,755	10.3	2,923	77.8	12	115	0.314

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い180例について確定調査を行った結果、確定癌165例（地域検診49例、施設検診116例）、腺腫10例、その他5例（非がん1例、県外受診3例、治療未受診1例）であった。そのうち早期がんは97例、早期癌率は58.8%であった。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り60歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多かった。40歳代男性からがんが4例発見され、早期がん1例、進行がん3例で内訳は初回S状結腸2型MP癌とIspM癌、初回盲腸2型SS(A)、経年直腸2型SI(AI)であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が52.7%で、例年に比べ、D、Tの割合が多くなっている。肉眼分類では「2」33.3%であった。早期癌97例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が54.7%であった。例年通りの結果であった。
- (3) 大きさは、今年は21～50mmが36.4%と高く、比較的大きな癌の占める割合が多くなっている。
- (4) Dukes分類は「A」が73.3%、組織型分類は「Well」が55.2%、「Mod」が33.9%であった。例年通りの結果であった。
- (5) 治療方法は外科手術が26例(15.8%)、内視鏡下手術78例(47.3%)、内視鏡治療は59例(35.8%)であった。ここ近年は内視鏡治療が多かったが、今年は内視鏡下手術の割合が増えた。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは18例（東部9例、中部2例、西部7例）であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

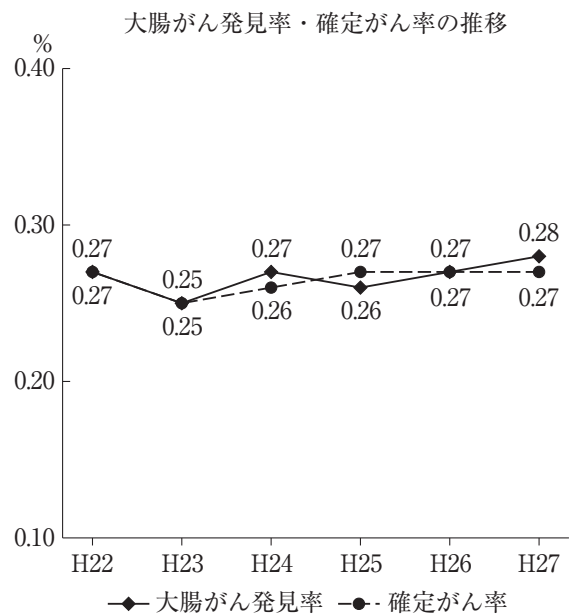
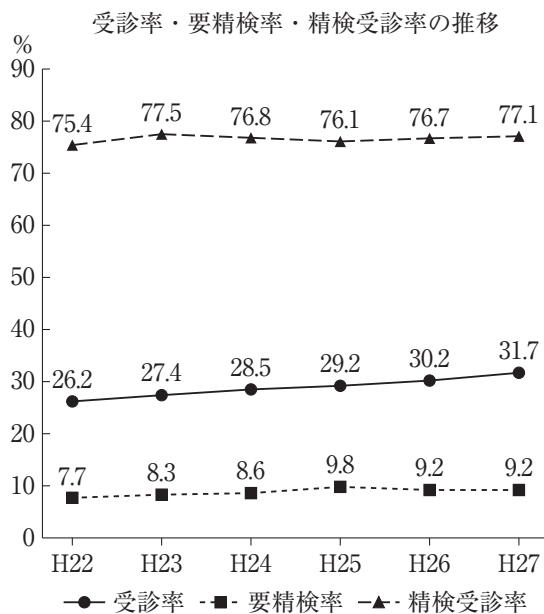
区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	188,186	190,556	190,556	190,556	190,556	190,556
	受 診 者 数(人) B	49,374	52,192	54,362	55,556	57,502	60,329
	受 診 率(%) C = B/A	26.2	27.4	28.5	29.2	30.2	31.7
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	45,598	47,885	49,693	50,100	52,222	54,810
	要 精 検 者 数(人) E	3,776	4,307	4,669	5,456	5,280	5,519
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	7.65	8.25	8.59	9.82	9.18	9.15
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,848	3,340	3,588	4,151	4,049	4,253
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	75.4	77.5	76.8	76.1	76.7	77.1
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	133(5)	131(9)	149(4)	146(9)	156(10)	166(14)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.27	0.25	0.27	0.26	0.27	0.28
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.5	3.0	3.2	2.7	3.0	3.0
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	132	131	142	148	155	165
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.27	0.25	0.26	0.27	0.27	0.27

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上。

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(2) 平成27年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一次検診 受診者数 b		受診率 (%) c = b / a			一次検診結果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	992	2,083	46.0	51.5	49.5	56	137	936	1,946	5.6	6.6	6.3
45～49歳	2,326	3,853	854	1,774	36.7	46.0	42.5	55	108	799	1,666	6.4	6.1	6.2
50～54歳	3,058	4,974	925	2,113	30.2	42.5	37.8	75	122	850	1,991	8.1	5.8	6.5
55～59歳	4,908	8,189	1,249	3,040	25.4	37.1	32.7	94	202	1,155	2,838	7.5	6.6	6.9
60～64歳	9,854	13,797	2,973	5,145	30.2	37.3	34.3	280	341	2,693	4,804	9.4	6.6	7.6
65～69歳	11,061	14,574	5,309	7,455	48.0	51.2	49.8	535	580	4,774	6,875	10.1	7.8	8.7
70～74歳	11,588	16,049	4,249	5,932	36.7	37.0	36.8	457	537	3,792	5,395	10.8	9.1	9.8
75～79歳	11,797	17,672	3,379	4,950	28.6	28.0	28.3	421	488	2,958	4,462	12.5	9.9	10.9
80歳以上	15,558	35,092	3,259	4,648	20.9	13.2	15.6	491	540	2,768	4,108	15.1	11.6	13.0
計	72,308	118,248	23,189	37,140	32.1	31.4	31.7	2,464	3,055	20,725	34,085	10.6	8.2	9.1
合 計	190,556		60,329		31.7			5,519		54,810		9.1		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	40	95	71.4	69.3	69.9	17	60	21	35	0	0	2	0	0.202	0.000	0.065	3.6	0.0	1.0
45～49歳	40	72	72.7	66.7	68.7	13	37	25	35	0	0	2	0	0.234	0.000	0.076	3.6	0.0	1.2
50～54歳	59	84	78.7	68.9	72.6	18	33	36	49	0	0	5	2	0.541	0.095	0.230	6.7	1.6	3.6
55～59歳	58	162	61.7	80.2	74.3	12	73	40	80	1	1	5	8	0.400	0.263	0.303	5.3	4.0	4.4
60～64歳	192	267	68.6	78.3	73.9	49	105	133	152	1	1	9	9	0.303	0.175	0.222	3.2	2.6	2.9
65～69歳	419	493	78.3	85.0	81.8	68	176	328	298	2	2	21	17	0.396	0.228	0.298	3.9	2.9	3.4
70～74歳	374	457	81.8	85.1	83.6	79	165	281	276	0	0	14	16	0.329	0.270	0.295	3.1	3.0	3.0
75～79歳	329	402	78.1	82.4	80.4	62	134	246	253	1	3	20	12	0.592	0.242	0.384	4.8	2.5	3.5
80歳以上	360	350	73.3	64.8	68.9	81	116	262	225	1	1	16	8	0.491	0.172	0.304	3.3	1.5	2.3
計	1,871	2,382	75.9	78.0	77.1	399	899	1,372	1,403	6	8	94	72	0.405	0.194	0.275	3.8	2.4	3.0
合計	4,253		77.1			1,298		2,775		14		166		0.275			3.0		

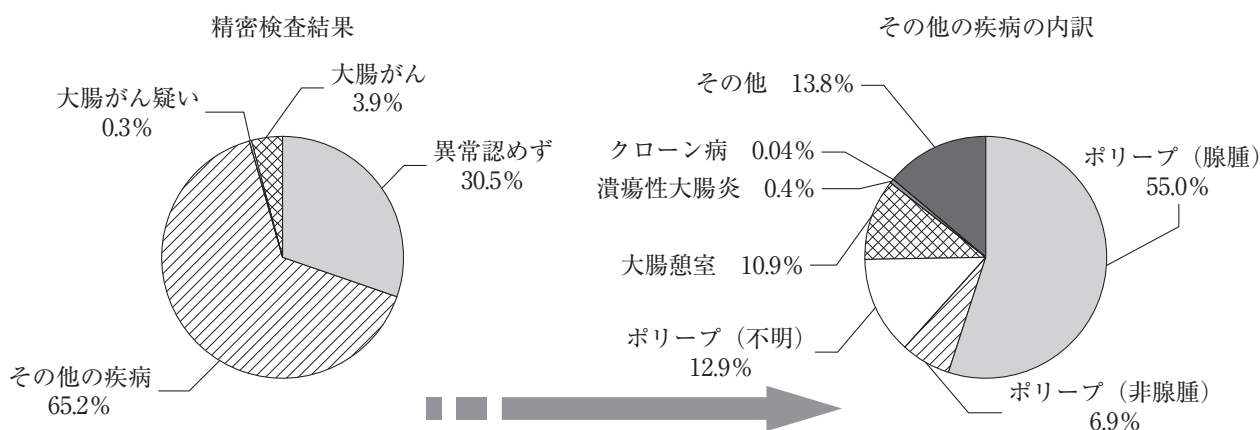
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	8,733	14,128	752	940	7,981	13,188	8.6	6.7	7.4
中国労働衛生協会	353	516	39	33	314	483	11.0	6.4	8.3
地域検診小計	9,086	14,644	791	973	8,295	13,671	8.7	6.6	7.4
病院	4,139	6,014	522	614	3,617	5,400	12.6	10.2	11.2
診療所	9,964	16,482	1,151	1,468	8,813	15,014	11.6	8.9	9.9
施設検診小計	14,103	22,496	1,673	2,082	12,430	20,414	11.9	9.3	10.3
計	23,189	37,140	2,464	3,055	20,725	34,085	10.6	8.2	9.1
合計	60,329		5,519		54,810		9.1		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
	d'		e'			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		g'			h'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	540	731	71.8	77.8	75.1	107	275	399	440	2	0	32	16	0.366	0.113	0.210	4.3	1.7	2.8
中国労働衛生協会	29	30	74.4	90.9	81.9	6	23	22	5	0	0	1	2	0.283	0.388	0.345	2.6	6.1	4.2
地域検診小計	569	761	71.9	78.2	75.4	113	298	421	445	2	0	33	18	0.363	0.123	0.215	4.2	1.8	2.9
病院	386	455	73.9	74.1	74.0	83	165	286	274	2	2	15	14	0.362	0.233	0.286	2.9	2.3	2.6
診療所	916	1,166	79.6	79.4	79.5	203	436	665	684	2	6	46	40	0.462	0.243	0.325	4.0	2.7	3.3
施設検診小計	1,302	1,621	77.8	77.9	77.8	286	601	951	958	4	8	61	54	0.433	0.240	0.314	3.6	2.6	3.1
計	1,871	2,382	75.9	78.0	77.1	399	899	1,372	1,403	6	8	94	72	0.405	0.194	0.275	3.8	2.4	3.0
合計	4,253		77.1			1,298		2,775		14		166		0.275			3.0		



4) 平成27年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員											
	対象者数	地域検診	施設検診	計	受診率 (%)	地域検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H		
鳥取市	57,433	4,207	14,566	18,773	32.7	289	1,393	1,682	9.0	1,306	77.6	416	828	2	60	890	0.320	3.6		
米子市	42,442	0	12,986	12,986	30.6	0	1,353	1,353	10.4	1,060	78.3	319	691	6	44	741	0.339	3.3		
倉吉市	17,700	1,615	1,926	3,541	20.0	140	236	376	10.6	286	76.1	90	191	0	5	196	0.141	1.3		
境港市	11,307	1,179	2,473	3,652	32.3	83	264	347	9.5	294	84.7	78	202	3	11	216	0.301	3.2		
岩美町	4,844	1,272	304	1,576	32.5	122	17	139	8.8	106	76.3	35	64	0	7	71	0.444	5.0		
八頭町	6,534	2,530	437	2,967	45.4	192	38	230	7.8	184	80.0	53	122	0	9	131	0.303	3.9		
若桜町	1,776	340	352	692	39.0	22	27	49	7.1	36	73.5	8	26	0	2	28	0.289	4.1		
智頭町	3,263	269	875	1,144	35.1	24	57	81	7.1	67	82.7	24	42	0	1	43	0.087	1.2		
湯梨浜町	5,964	1,537	658	2,195	36.8	120	75	195	8.9	139	71.3	44	91	0	4	95	0.182	2.1		
三朝町	2,767	691	169	860	31.1	41	24	65	7.6	36	55.4	10	26	0	0	26	0.000	0.0		
北栄町	5,729	2,466	244	2,710	47.3	159	30	189	7.0	130	68.8	39	88	1	2	91	0.074	1.1		
琴浦町	7,221	2,167	92	2,259	31.3	175	17	192	8.5	147	76.6	36	107	0	4	111	0.177	2.1		
南部町	4,221	557	1,163	1,720	40.7	38	193	231	13.4	151	65.4	45	102	1	3	106	0.174	1.3		
伯耆町	4,533	1,428	0	1,428	31.5	105	0	105	7.4	83	79.0	31	49	0	3	52	0.210	2.9		
日吉津村	995	311	236	547	55.0	16	11	27	4.9	18	66.7	6	11	0	1	12	0.183	3.7		
大山町	7,503	1,363	77	1,440	19.2	96	8	104	7.2	86	82.7	28	54	0	4	58	0.278	3.8		
日南町	2,966	670	41	711	24.0	57	12	69	9.7	61	88.4	11	46	1	3	50	0.422	4.3		
日野町	1,783	445	0	445	25.0	24	0	24	5.4	15	62.5	0	15	0	0	15	0.000	0.0		
江府町	1,575	683	0	683	43.4	61	0	61	8.9	48	78.7	25	20	0	3	23	0.439	4.9		
合計	190,556	23,730	36,599	60,329	31.7	1,764	3,755	5,519	9.1	4,253	77.1	1,298	2,775	14	166	2,955	0.275	3.0		
東部	73,850	8,618	16,534	25,152	34.1	649	1,532	2,181	8.7	1,699	77.9	536	1,082	2	79	1,163	0.314	3.6		
中部	39,381	8,476	3,089	11,565	29.4	635	382	1,017	8.8	738	72.6	219	503	1	15	519	0.130	1.5		
西部	77,325	6,636	16,976	23,612	30.5	480	1,841	2,321	9.8	1,816	78.2	543	1,190	11	72	1,273	0.305	3.1		

(3) 平成27年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	22	14	17	53	59	2	66	127	81	16	83	180
確定癌	22	12	15	49	55	2	59	116	77	14	74	165
腺腫	0	2	1	3	1	0	6	7	1	2	7	10
その他	0	0	1	1	3	0	1	4	3	0	2	5

※その他：非癌1件、県外受診3件、治療未受診1件

腺腫のケースも含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出してしまっている。

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	1	2	4	2	5	6	4	4	5	33
	女	0	0	0	3	4	4	2	1	2	16
	計	1	2	4	5	9	10	6	5	7	49
施設	男	1	0	1	3	3	15	9	16	11	59
	女	0	0	2	6	4	15	12	12	6	57
	計	1	0	3	9	7	30	21	28	17	116
計	男	2	2	5	5	8	21	13	20	16	92
	女	0	0	2	9	8	19	14	13	8	73
総計		2	2	7	14	16	40	27	33	24	165

※40代 3名内訳（初回S状結腸2型MP癌、初回盲腸2型SS（A）、経年直腸2型SI（AI））

※40代 1名性別未記載あり（初回S状結腸I sp M癌）

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計（%）
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	1	0	0	1	0	0	0	0	1(0.6)
R	3	3	6	12	10	0	15	25	37(22.4)
S	10	5	3	18	18	1	13	32	50(30.3)
D	1	0	2	3	2	0	6	8	11(6.7)
T	1	0	1	2	6	0	10	16	18(10.9)
A	4	2	2	8	16	0	9	25	33(20.0)
C	2	1	1	4	3	1	4	8	12(7.3)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	1	0	1	0	0	2	2	3(1.8)
計	22	12	15	49	55	2	59	116	165

D、Tの割合多くなっている

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	6	6	1	13	10	0	19	29	42(25.5)
11～20	6	3	6	15	18	1	13	32	47(28.5)
21～50	9	1	6	16	24	1	19	44	60(36.4)
51～	1	0	1	2	3	0	6	9	11(6.7)
不明	0	2	1	3	0	0	2	2	5(3.0)
計	22	12	15	49	55	2	59	116	165

比較的大きな癌の占める割合多くなっている。

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	30	67	97(58.8)
1	5	5	10(6.1)
2	12	43	55(33.3)
3	1	1	2(1.2)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	1	0	1(0.6)
計	49	116	165

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	7	8	15(15.5)
I sp	12	26	38(39.2)
I s	4	8	12(12.4)
II a	1	11	12(12.4)
II a + II c	4	10	14(14.4)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.1)
III	0	0	0
その他	2	2	4(4.1)
不明	0	0	0
計	30	67	97

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	5	6	6	22	1	20	60(36.4)
sm	6	2	4	10	0	15	37(22.4)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	11	8	10	32	1	35	97(58.8)
mp	6	1	2	10	0	4	23(13.9)
ss	3	3	1	10	1	14	32(19.4)
se	1	0	1	3	0	5	10(6.1)
si	0	0	1	0	0	1	2(1.2)
不明	1	0	0	0	0	0	1(0.6)
計	22	12	15	55	2	59	165

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	17	9	11	38	1	45	121(73.3)
B	3	2	1	10	0	6	22(13.3)
C	1	1	2	6	0	5	15(9.1)
D	1	0	1	1	1	3	7(4.2)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	22	12	15	55	2	59	165

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	9	7	8	26	1	40	91(55.2)
Mod	11	3	5	22	0	15	56(33.9)
Por	1	0	0	1	0	3	5(3.0)
Muc	1	1	1	0	1	0	4(2.4)
その他	0	0	0	3	0	0	3(1.8)
不明	0	1	1	3	0	1	6(3.6)
計	22	12	15	55	2	59	165

※その他：pap

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	0	0	1	10	0	15	26(15.8)
内視鏡下手術	16	6	9	24	1	22	78(47.3)
内視鏡治療	6	6	4	21	1	21	59(35.8)
その他不明	0	0	1	0	0	1	2(1.2)
計	22	12	15	55	2	59	165

内視鏡下手術の割合が増えた

表11 平成27年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果			
												検診方式	便潜血	精密結果	
地域 検診	東部	1	78	男性	盲腸	25mm	MP	2	Mod	++	III a	地域	-・-		
		2	65	女性	肛門管	45mm	MP	2	Well	++			地域	-・+	未受診
		3	86	男性	S状結腸	20mm	MP	2	Mod	+・-	I		地域	-・-	
	中部	4	62	男性	直腸	mm	SS(A)	2	Muc	+・-	II		地域	-・-	
		5	56	女性	S状結腸	10mm	SS(A)	2	Mod	+・-	III a		地域	-・-	
	西部	6	48	男性	直腸	mm	SI(AI)	2	Well	+・-	III b		施設	+・-	未受診
		7	75	男性	上行結腸	45mm	MP	1	Well	+・-	I		地域	+・+	未受診
施設 検診	東部	8	72	女性	横行結腸	29mm	MP	2	Well	++	I		施設	-・-	
		9	67	男性	S状結腸	20mm	SS(A)	2	Mod	++	II		施設	+・+	未受診 (H25年度検診でも要精検となり、内視鏡検査の結果、異常なし)
		10	67	男性	上行結腸	33mm	SS(A)	2	Mod	++	II		施設	-・-	
		11	73	女性	盲腸	30mm	MP	2	Pap	+・-	I		施設	-・-	
		12	85	男性	横行結腸	22mm	MP	1	Mod	++	I		施設	-・-	
		13	72	男性	横行結腸	22mm	MP	2	Mod	++	III a		施設	-・-	
	西部	14	78	女性	上行結腸	50mm	SS(A)	2	Well	++	II		施設	要精検	未受診
		15	84	男性	S状結腸	5mm	MP	2	Por	++	I		施設	-・-	
		16	70	女性	直腸	10mm	MP	2	Mod	++	III a		施設	-・-	
		17	79	男性	横行結腸	12mm	SS(A)	2	Mod	++	III a		施設	-・-	
18		74	男性	盲腸	40mm	SS(A)	2	Mod	++	II		地域	-・-		

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）＋節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ＋未受診者）＋節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成27年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成27年度は全市町村で実施し、対象者数196,150人（前年度202,322人）のうち、受診者数は7,179人（前年度8,321人）で、受診率は3.7%（前年度4.1%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者112人、HCV抗体陽性者20人で、受診者数の1.84%（前年度1.80%）であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.6%（前年度1.5%）、HCV抗体陽性率は0.3%（前年度0.3%）であった。また、要精検者数132人のうち精検受診者数は82人、精検受診率は62.1%（前年度64.7%）で、前年度に比べ2.6ポイントの減であった。精検受診者数82人のうち、肝臓がん確定は1人であり、がん発見率は0.02%であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対 象 者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,710	877	160 (18.2)	9 (1.0)	3 (0.3)	3 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	779	355	162 (45.6)	14 (3.9)	2 (0.6)	4 (1.1)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成27年度の21年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数148,446人、推計受診率77.2%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,369人（陽性率2.27%）、HCV抗体陽性者は3,690人（陽性率2.49%）であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 平成27年度肝炎ウイルス検査からは肝がんが1名発見された。肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が2名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が1名、ウイルス不明から肝臓癌が1名、疑いが1例、がんでなかったのが2名であった。比較的に小さいものが見つかりしている。
- (2) 平成7～26年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、29例が確定癌であり、そのうち26例は死亡、生存中の3例であった。また、平成10～26年度定期検査確定がんが145例で、そのうち111例（他病死を含む）が死亡で、再発、無再発をあわせて生存者は34例である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率 (%)	HCV陽性者	HCV陽性率 (%)
H25	8,126	148	1.8	35	0.4
H26	8,321	124	1.5	26	0.3
H27	7,179	112	1.6	20	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
H25	183	132	72.1	1	0.01
H26	150	97	64.7	2	0.02
H27	132	82	62.1	1	0.01

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成27年度			平成7～27年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)
40～44歳	1,230	0.8	0.1	13,698	2.15	0.64
45～49歳	636	0.8	0.3	10,918	3.11	1.30
50～54歳	652	0.9	0.2	12,674	3.19	1.56
55～59歳	777	1.4	0.0	15,901	2.70	2.06
60～64歳	1,383	2.1	0.4	26,449	2.30	2.58
65～69歳	1,289	2.2	0.2	27,896	2.22	2.95
70～74歳	778	2.2	0.4	23,345	1.78	3.34
75～79歳	201	1.0	0.5	9,957	1.50	3.81
80歳以上	233	1.7	2.1	7,608	1.39	3.54
計	7,179	1.6	0.3	148,446	2.27	2.49

(2) 平成27年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b+d)/a			f = (c+d)/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	424	806	419	800	4	6	1	0	0	0	0.9	0.7	0.8	0.2	0.0	0.1
45～49歳	209	427	206	423	2	3	1	1	0	0	1.0	0.7	0.8	0.5	0.2	0.3
50～54歳	230	422	228	417	2	4	0	1	0	0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.2	0.2
55～59歳	269	508	264	502	5	6	0	0	0	0	1.9	1.2	1.4	0.0	0.0	0.0
60～64歳	625	758	605	744	17	12	3	2	0	0	2.7	1.6	2.1	0.5	0.3	0.4
65～69歳	668	621	652	607	15	13	1	1	0	0	2.2	2.1	2.2	0.1	0.2	0.2
70～74歳	400	378	385	373	13	4	2	1	0	0	3.3	1.1	2.2	0.5	0.3	0.4
75～79歳	102	99	100	98	2	0	0	1	0	0	2.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.5
80歳以上	89	144	88	136	0	4	1	4	0	0	0.0	2.8	1.7	1.1	2.8	2.1
計	3,016	4,163	2,947	4,100	60	52	9	11	0	0	2.0	1.2	1.6	0.3	0.3	0.3
合 計	7,179		7,047		112		20		0		1.6			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 h = g / a					
		無症候性キャリア		脂肪肝			慢性肝炎			アルコール性肝障害			肝臓がん疑い			肝臓がん		その他の疾病		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40~44歳	B型陽性	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45~49歳	B型陽性	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50~54歳	B型陽性	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	2	3	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
55~59歳	B型陽性	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
60~64歳	B型陽性	9	10	7	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	10	10	7	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
65~69歳	B型陽性	9	10	8	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	10	11	8	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
70~74歳	B型陽性	12	1	10	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	14	2	10	1	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
75~79歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
80歳以上	B型陽性	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	B型陽性	36	34	28	29	1	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	4	8	0	2	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	40	42	28	31	1	9	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	B型陽性	70	57	57	57	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	12	2	0	2	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	82	59	57	59	1	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	39	55	39	55	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	816	1,234	796	1,218	19	14	1	2	0	0	2.3	1.1	1.6	0.1	0.2	0.1
中国労働衛生協会	40	53	38	53	2	0	0	0	0	0	5.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0
病 院	445	595	436	585	9	9	0	1	0	0	2.0	1.5	1.7	0.0	0.2	0.1
診 療 所	1,676	2,226	1,638	2,189	30	29	8	8	0	0	1.8	1.3	1.5	0.5	0.4	0.4
計	3,016	4,163	2,947	4,100	60	52	9	11	0	0	2.0	1.2	1.6	0.3	0.3	0.3
合 計	7,179		7,047		112		20		0		1.6			0.3		

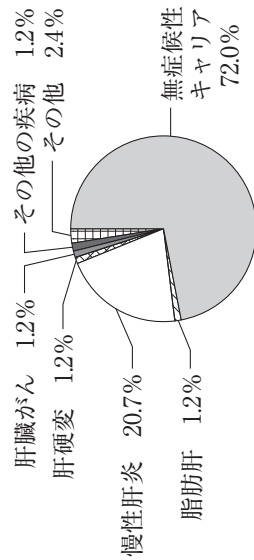
b. 精密検査結果

次 一 検 診 機 関	区 分	精 密 診 査 者		精 密 指 導 対 象 者 診 断 名												肝 臓 が ん 発 見 率 (%) h' = g' / a'		
		精 密 診 査 者		健 康 指 導 対 象 者				ア ル コ ホ ル 性 肝 臓 害				肝 臓 が ん				そ の 他		
		精 密 診 査 者		慢 性 肝 炎		肝 硬 変		肝 臓 が ん 疑 い		肝 臓 が ん		そ の 他 の 疾 病		そ の 他		肝 臓 が ん 発 見 率 (%) h' = g' / a'		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
直 営	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保 健 事 業 団	全 体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	9	10	4	9	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中 国 労 働 衛 生 協 会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	9	11	4	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.123
	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
病 院	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	5	10	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
診 療 所	B型陽性	5	9	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	全 体	24	21	17	13	1	0	4	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0.000
	B型陽性	20	15	17	12	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	4	6	0	1	0	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	
合 計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	40	42	28	31	1	0	8	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0.033
	B型陽性	70	57	57	57	1	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
合 計	C型陽性	12	2	2	2	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	82	59	59	59	1	0	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.014

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

精密検査結果（肝炎ウイルス検査）



4) 平成27年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
実施市町村数=19

市町村名	受診者数				陽性者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 A	集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗体 陽性率 (%) J=(G+H)/D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L=k/(F+G+H)	無症候性 キャリア M	その他 の疾病 N	が ん 疑 い O	が ん P	有 所 見 者 Q=N+O+P	が ん 発 見 率 (%) R=P/D
鳥取市	48,836	764	1,872	2,636	5.4	49	6	0	1.9	0.2	36	65.5	28	8	0	0	8	0.000
米子市	68,943	0	2,006	2,006	2.9	26	12	0	1.3	0.6	26	68.4	15	11	0	0	11	0.000
倉吉市	17,573	204	319	523	3.0	11	0	0	2.1	0.0	7	63.6	5	2	0	0	2	0.000
境港市	6,977	107	270	377	5.4	5	0	0	1.3	0.0	5	100.0	3	1	0	1	2	0.265
岩美町	4,854	122	0	122	2.5	3	0	0	2.5	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000
八頭町	7,522	146	118	264	3.5	5	1	0	1.9	0.4	1	16.7	1	0	0	0	0	0.000
若桜町	717	20	31	51	7.1	1	0	0	2.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,385	59	46	105	3.1	3	0	0	2.9	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	5,329	64	59	123	2.3	1	0	0	0.8	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
三朝町	2,767	94	44	138	5.0	1	0	0	0.7	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	6,638	79	41	120	1.8	1	0	0	0.8	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
琴浦町	2,088	133	0	133	6.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,060	45	95	140	3.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
伯耆町	4,533	166	0	166	3.7	2	1	0	1.2	0.6	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	40	14	0	14	35.0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	5,473	135	0	135	2.5	1	0	0	0.7	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	2,303	34	41	75	3.3	1	0	0	1.3	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	2,537	7	0	7	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	1,575	44	0	44	2.8	2	0	0	4.5	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
合 計	196,150	2,237	4,942	7,179	3.7	112	20	0	1.6	0.3	82	62.1	59	22	0	1	23	0.014
東 部	65,314	1,111	2,067	3,178	4.9	61	7	0	1.9	0.2	41	60.3	33	8	0	0	8	0.000
中 部	34,395	574	463	1,037	3.0	14	0	0	1.4	0.0	9	64.3	7	2	0	0	2	0.000
西 部	96,441	552	2,412	2,964	3.1	37	13	0	1.2	0.4	32	64.0	19	12	0	1	13	0.034

(3) 平成7～27年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成27年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成27年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成28年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																					
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				検査結果				その他													
					慢性肝炎	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝										
																	ア	ル	コ	ー	性	害				
40～44歳	15	8	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45～49歳	12	26	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	27	49	4	17	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	49	92	15	25	0	3	4	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	83	133	34	58	0	2	8	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	139	209	64	102	2	2	14	16	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	136	182	76	94	0	4	24	16	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	73	148	46	31	0	1	11	12	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
80歳以上	107	222	53	40	2	4	8	13	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	641	1,069	309	217	5	17	74	86	4	5	1	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計 (比率%)	1,710		877 (100)	662 (75.5)	22 (2.5)	160 (18.2)	9 (1.0)	1 (0.1)	3 (0.3)	11 (1.3)	3 (0.3)	3 (0.3)	37 (4.5)	6 (0.7)												

2) 平成27年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成27年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成28年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																					
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				検査結果				その他													
					慢性肝炎	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝	脂肪肝											
																ア	ル	コ	ー	性	害					
40～44歳	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	5	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	14	16	4	10	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	23	15	10	11	3	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	34	52	15	24	3	5	7	12	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	36	70	16	40	5	14	6	12	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	44	113	22	64	7	19	9	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	90	254	33	102	8	39	18	50	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	254	525	102	253	29	82	46	116	6	8	1	0	1	3	1	1	12	25	6	10	16	16	16	16	16	
合計 (比率%)	779		355 (100)	111 (31.3)	8 (2.3)	162 (45.6)	14 (3.9)	1 (0.3)	4 (1.1)	37 (10.4)	2 (0.6)	2 (0.6)	37 (10.4)	6 (1.7)												

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～27年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数 a		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 b		陽性率 (%) c = b / a			陽性者数 d		陽性率 (%) e = d / a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	4,466	9,232	119	176	2.66	1.91	2.15	40	48	0.90	0.52	0.64
45～49歳	3,408	7,510	126	214	3.70	2.85	3.11	41	101	1.20	1.34	1.30
50～54歳	3,703	8,971	141	263	3.81	2.93	3.19	41	157	1.11	1.75	1.56
55～59歳	4,715	11,186	132	298	2.80	2.66	2.70	79	249	1.68	2.23	2.06
60～64歳	9,951	16,498	282	327	2.83	1.98	2.30	210	472	2.11	2.86	2.58
65～69歳	11,537	16,359	292	328	2.53	2.01	2.22	304	520	2.64	3.18	2.95
70～74歳	9,621	13,724	185	231	1.92	1.68	1.78	312	468	3.24	3.41	3.34
75～79歳	3,870	6,087	67	82	1.73	1.35	1.50	150	229	3.88	3.76	3.81
80歳以上	2,799	4,809	33	73	1.18	1.52	1.39	114	155	4.07	3.22	3.54
計	54,070	94,376	1,377	1,992	2.55	2.11	2.27	1,291	2,399	2.39	2.54	2.49
合計	148,446		3,369		2.27			3,690		2.49		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成27年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	48	男	肝臓がん	肝切除	28.7.13	単発	S7	23×19	腫瘤	無	C	4923

2) 平成27年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考
1	78	女	FNH	未治療 経過観察			S248	38・20・ 15×	腫瘤	無	B	2.9	10以下	生存
2	85	男	肝臓がん	TAE	27.11.13	単発	S8	32×28	腫瘤	無	B	2.5	23	生存
3	74	男	肝臓がん	TAE・RFA	27.9.7	単発	S4	24×22	腫瘤	無	B	8.4	1.7	生存
4	85	男	がんなし	未治療							B	2.1	16955	生存 ワーファリン
5	76	女	肝臓がん	不詳		> 4	S5678	36×33	腫瘤	有	C	31.7	811	不詳 受診せず
6	87	女	肝臓がん疑い	未治療							C	49.0	14	生存 認知症
7	76	男	肝がん肝細胞癌	肝切除	28.3.16	単発	S8	23×20	腫瘤	有		7.8	226	生存

3) 平成10年度～平成26年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	4年後再発
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	再発、9年8か月後死亡
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	再発、6年8か月後死亡
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡
48	73	男	切除	00. 3.	不明	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	再発、3年10か月後死亡
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	再発、6年10か月後他病死
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	再発、7年3か月後死亡
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02. 9. .	単 発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡
75	63	男女	T/R	07. 5. 8	単 発	S8	16×16			B	7年1か月後再発
76	73	男女	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡
77	73	男女	切除	05. 3. 14	単 発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡
78	74	男女	切除	06. 12. 21	単 発	S458	35×30	腫瘍	無	C	再発、8年10か月後死亡
79	60	男女	RFA	07. 7. .	単 発	S7	17×12	腫瘍	無	C	3年4か月後再発
80	87	男女	未治療		単 発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	男女	TAE	03. 3. .	単 発	S2/3	20×20			C	再発、8年7か月後死亡
82	77	男女	TAE	08. 10. 7	単 発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡
83	70	男女	RFA		単 発	S5	12×12	腫瘍	有	B	無再発生存中
84	77	男女	TAE	09. 3. 24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死
85	84	男女	T/P	09. 9. 7	単 発	S7	30×30	腫瘍	有	C	2年1か月後肝不全死
86	72	男女	TAE	09. 12. 18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3年2か月後死亡
87	79	男女	TAE	10. 11. 18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	4年1か月後再発
88	89	男女	TAE	09. 10. 6	>4個		20×20	腫瘍		C	3年9か月後死亡
89	76	男女	T/R	08. 5. 12	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	C	5年2か月後再発
90	76	男女	T/R	09. 7. 22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡
91	79	男女	T/R	10. 3. 25	単 発	S7	23×23		有	C	2年11ヶ月後他病死
92	85	男女	切除	10. 3. .	単 発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
93	66	男女	TAE	09. 7. .	>4個	S1		浸潤	有	B	1年10か月後死亡
94	73	男女	切除	09. 10. 20	単 発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	男女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男女	TAE	08. 1. .	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5年3か月後死亡
97	78	男女	精査中							C	
98	75	男女	TAE	07. 2. 11	単 発	S6			無	B	7か月後再発
99	66	男女	TAE	11. 1. 20	2個	S5/6	12×12	腫瘍		C	無再発生存中
100	80	男女	RFA	10. 11. 09	単 発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3年8か月後再発
101	64	男女	TAE	10. 11. .	単 発	S6	5×5	腫瘍		C	再発、5年1か月後死亡
102	75	男女	切除	08. 7. 30					無	C	無再発生存中
103	75	男女	TAE	10. 12. 08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	無	C	再発、2年5か月後死亡
104	69	男女	RFA	10. 4. .	単 発	S6	18×18		無	C	3年10か月後再発
105	79	男女	TAI	09. 10. 26	2個	S7/8	18×15	腫瘍		C	2年8か月後死亡
106	71	男女	切除	07. 8. 17	2個	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡
107	85	男女	RFA	10. 7. .	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	再発、5年4か月後他病死
108	84	男女	RFA	09. 10. 30	単 発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中
109	65	男女	T/R	10. 3. .	単 発	S5	24×24		有	B	再発、4年11か月後死亡
110	57	男女	切除	11. 1. 18	単 発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中
111	78	男女	肝癌否定		単 発	S5	5×5		有	C	5か月後腫瘍消失
112	87	男女	RFA	11. 4. 7	単 発	S5	15×16	腫瘍	無	C	無再発生存中
113	67	男女	肝がん否定							C	
114	77	男女	RFA	11. 7. .	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	1年2か月後再発
115	92	男女	TAE	11. 10. 4	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
116	78	男女	T/R	10. 3. 24	単 発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9か月後再発
117	76	男女	切除	11. 7. 26	単 発	S7	80×75	腫瘍	無	C	無再発生存中
118	75	男女	RFA	11. 7. .	単 発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3年2か月後再発
119	84	男女	転移性肝癌(肺大細胞癌)		単 発	S7	15×14	腫瘍	有	B	5か月後死亡
120	75	男女	RFA	13. 10. 2	単 発	S7	15×14	腫瘍	有	B	1年11か月後再発
121	75	男女	切除	11. 6. .					有	B	4年0か月後他病死
122	70	男女	PEI	12. 5. 9	単 発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8か月後死亡
123	83	男女	TAE	11. 8. 30	単 発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2年7か月後再発
124	75	男女	RFA	08. 10. .	単 発	S5	20×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
125	80	男女	TAE	12. 11. 20	単 発	S1	40×40	腫瘍	無	C	2年0か月後再発
126	86	男女	T/R	13. 11. .	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中
127	78	男女	RFA	12. 3. 1	単 発	S4	8×9	腫瘍	有	C	1年10か月後再発
128	82	男女	RFA	12. 3. 14	単 発	S7	13×9	腫瘍	有	C	再発、2年10か月後死亡
129	87	男女	TAE	12. 7. 6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
130	85	男女	RFA	12. 2. 13	単 発	S5	10×17	腫瘍	無	C	再発、3年8か月後死亡
131	76	男女	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	3年1か月後死亡
132	81	男女	TAE	10. 11. 10	単 発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2年6か月後死亡
133	68	男女	切除	13. 5. 20	単 発	S5	35×38	腫瘍	無	B	
134	60	男女	TAE	13. 8. 26	単 発	S3	18×15	腫瘍	有	B	無再発生存中
135	70	男女	RFA	14. 4. .	単 発	S1	14×14	腫瘍	無	B	無再発生存中
136	83	男女	T/R	13. 10. .	単 発	S7	26×26	腫瘍	無	C	無再発生存中
137	88	男女	TAE	13. 10. 31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	1年後再発
138	79	男女	切除	13. 3. .	単 発	S8	45×45	浸潤	無	C	1年3か月後死亡
139	73	男女	T/R	13. 7. 2	>4個	両葉	24×24		無	C	1年8か月後死亡
140	80	男女	T/P	13. 5. 1	単 発	S5	30×30	腫瘍	無	C	9か月後再発
141	94	男女		12. 8. 6						C	
142	83	男女	TAE	07. .	>4個	S157		浸潤	有	C	
143	67	男女	切除	14. 5. 27	単 発	S5	20×20	腫瘍	無	B	
144	66	男女	T/R	14. 9. 10	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	B	
145	73	男女	T/R	14. 4. 16	2個	S45	10×17		無	B	
146	77	男女	TAE	12. 10. 17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	
147	78	男女	切除	15. 12. 17	単 発	S5	15×15	腫瘍		C	
148	78	男女		11. 6. 20	>4個	S345678	50×		有	C	4年1か月後死亡

4) 平成7年度～平成26年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	男	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘍	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘍	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘍	有	B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり		腫瘍	有	B	10か月後死亡
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C	1年5か月後再発
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B	無再発生存中
27	72	男	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B	1年5か月後死亡
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S45	72×72	腫瘍	有	C	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60	腫瘍	有	C	死亡

7. 全国がん検診実績との比較

平成26年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

区 分		平成26年度実績 (鳥取県)	平成26年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,506,995	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	26,972	2,324,312	
	受診率 (%)	32.6	9.5	
	要精検者数 (人)	679	175,141	
	要精検率 (%)	2.52	7.54	
	精検受診者数(人)	548	139,228	
	精検受診率 (%)	80.7	79.5	
	がんの者 (人)	64	2,237	
がん発見率 (%)	0.24	0.10		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	66,672	22,083,258	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,949,186) + (4,199,634) - (1,000,249)}{(22,083,258)} = 32.4$ 鳥取 $\frac{(24,716) + (26,215) - (13,837)}{(66,672)} = 55.6$
	受診者数 (人)	26,215	4,199,634	
	受診率 (%)	39.3(55.6)	(32.4)	
	要精検者数 (人)	356	96,175	
	要精検率 (%)	1.36	2.29	
	精検受診者数(人)	291	69,665	
	精検受診率 (%)	81.7	72.4	
	がんの者 (人)	23	1,785	
がん発見率 (%)	0.09	0.04		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,667,727	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	27,322	4,033,976	
	受診率 (%)	33.0	16.4	
	要精検者数 (人)	987	79,030	
	要精検率 (%)	3.61	1.96	
	精検受診者数(人)	863	63,053	
	精検受診率 (%)	87.4	79.8	
	がんの者 (人)	15	1,515	
がん発見率 (%)	0.05	0.04		

区 分		平成26年度実績 (鳥取県)	平成26年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	49,435	14,679,109	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,072,393) + (2,182,748) - (326,174)}{(14,679,109)} = 26.8$ 鳥取 $\frac{(14,666) + (14,812) - (1,590)}{(49,435)} = 56.4$
	受診者数 (人)	14,812	2,182,748	
	受診率 (%)	30.0(56.4)	(26.8)	
	要精検者数 (人)	1,164	182,909	
	要精検率 (%)	7.86	8.38	
	精検受診者数(人)	1,071	155,712	
	精検受診率 (%)	92.0	85.1	
	がんの者 (人)	66	7,416	
がん発見率 (%)	0.45	0.34		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	24,950,553	
	受診者数 (人)	31,658	4,876,235	
	受診率 (%)	38.2	19.5	
	要精検者数 (人)	2,416	324,413	
	要精検率 (%)	7.63	6.65	
	精検受診者数(人)	1,840	217,039	
	精検受診率 (%)	76.2	66.9	
	がんの者 (人)	59	9,237	
がん発見率 (%)	0.19	0.19		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告 (厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

3 平成25年度から全国数値は、69才以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69才以下の実績で比較している。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

平成27年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.0%		35.1%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.0%	○	7.2%	○	
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	84.7%	○	80.8%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.33%	○	0.23%	○	
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.6%	○	1.4%	○	

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	28.9%		35.1%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.8%		3.1%		
精検受診率	許容値	70%以上	89.7%	○	88.5%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.06%	○	0.06%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	1.6%	○	2.0%	○	

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	31.7%		41.0%		
要精検率	許容値	7.0%以下	9.1%		7.6%		
精検受診率	許容値	70%以上	77.1%	○	76.6%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.28%	○	0.24%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.0%	○	3.1%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.1%		41.0%		
要精検率	許容値	1.4%以下	0.93%	○	1.08%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	86.8%	○	87.5%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.04%		0.05%	○	
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	4.6%	○	4.7%	○	

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	17.5%		32.8%		
要精検率	許容値	11.0%以下	8.17%	○	8.68%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	95.3%	◎	95.7%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.44%	○	0.40%	○	
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	5.39%	○	4.56%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 平成28年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成28年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出	席	者	内	容
胃がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会		平成29年2月4日(土)	午後4時～午後6時			鳥取市 鳥取県健康会館		146名			演題：「ピロリ菌感染を考慮した内視鏡検診に向けて」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座機能病態内科学 准教授 八島一夫先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 濱本 航先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 長谷川亮介先生 西部—1例：山陰労災病院 今本 龍先生	
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会		豪雪のため中止										
肺がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会		平成29年2月18日(土)	午後4時～午後6時			米子市 鳥取県西部医師会館		68名			演題：「肺がん検診胸部X線写真読影のコツとピットフォール」 講師：聖隷三方原病院院長補佐 呼吸器センター長 丹羽 宏先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 上田康仁先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 松岡佑樹先生 西部—2例：鳥大医 胸部外科 城所嘉輝先生	
乳がん	乳がん検診従事者講習会及び第24回鳥取県がん検診発見乳がん症例検討会		平成28年8月27日(土)	午後4時～午後6時			鳥取市 鳥取県健康会館		41名			演題：「読影者に必要な精度管理状況」 講師：浜田医療センター乳腺科部長 吉川和明先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 山口由美先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 児玉 渉先生 西部—2例：鳥大医学部 廣岡保明先生	
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会		平成28年8月6日(土)	午後3時～午後5時			米子市 鳥取県西部医師会館		68名			演題：「大腸癌の早期診断を目指して～便潜血から大腸CT、カプセル内視鏡まで～」 講師：博愛病院副院長 濱本哲郎先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 宮崎慎一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 長谷川亮介先生 西部—1例：山陰労災病院 向山智之先生	
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会		平成29年2月25日(土)	午後3時30分～午後5時20分			鳥取市 鳥取県東部医師会館		85名			演題：「慢性C型肝炎の治療がIFNフリーDAAs治療の時代になって～今後のHCC診療とは～」 講師：鳥取赤十字病院第4内科部長 満田朱理先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 三村憲一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 永原天和先生 西部—2例：山陰労災病院 西向榮治先生	

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成29年2月4日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 濱 本 航

60歳代、男性

既往歴：右下腿骨折手術

検診歴：平成24年11月の車検診では異常なし。

平成25年12月の車検診で異常を指摘され、近医にて上部消化管内視鏡検査を施行したところ異常所見なし。

平成26年11月の車検診で胃体部ニッシュ様を指摘されるも受診せず。

経 過：平成27年1月頃より空腹時の心窩部痛を認め、3月某日に近医を受診し、上部消化管内視鏡検査を施行したところ、広範な病変を認め精査加療目的に当院外科紹介となった。当院での上部消化管内視鏡検査で胃体中部～前庭部小彎後壁よりに4型胃癌を認め、生検でGroup5、Adenocarcinoma (tub1-2)であった。造影CT検査にて明らかなリンパ節転移、遠隔転移を認めず、同月に幽門側胃切除術を施行した。病理結果は、Adenocarcinoma、UML、Post、Type4、115×75mm、por2/sig>tub2、pT3、int、INFc、ly1、v0、pPM0、pDM0、pStage IIBであった。

考 察：平成25年に上部消化管内視鏡検査を施行するも、病変の指摘が困難な症例であった。検診の継続と、異常所見を伴う場合にはその都度の精査が必要と考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 長谷川 亮 介

70歳代、女性

既往歴：高血圧

検診歴：平成25年1月、平成26年1月の胃がん検診では異常を指摘されなかった。

平成27年1月の胃がん検診で異常を指摘された。

経 過：上記精査目的に当院受診。自覚症状はなし。上部消化管内視鏡検査で胃角部小彎前壁よりに1型進行胃癌を認めた。生検結果は中分化型の腺癌であった。

造影CTでは転移は認めず、消化器外科に紹介し、腹腔鏡下幽門側胃切除術が行われた。

切除標本の病理結果は、Adenocarcinoma、por2<tub1<tub2、MP、ly1、v1、INFc、PM-、DM-、n0、Stage IBであった。その後、再発なく経過している。

考 察：平成26年のフィルムを見直すと、胃角部にバリウムをはじく腫瘤影を指摘できた。この段階であれば、早期胃がんとして内視鏡的治療ができていたかもしれないが、継続した検診により、ある程度早い段階での発見につながったと考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 今 本 龍

70歳代、男性

既往歴：高血圧症

検診歴：平成26年度 車検診で異常なし。

平成27年度 車検診で異常なし。

平成28年度 車検診で「幽門前庭部の伸展不良」を指摘される。

経 過：上記精査目的に当院受診。

上部消化管内視鏡検査で幽門前庭部に十二指腸球部への浸潤を伴う2型進行胃癌を認め、生検、病理学的検査でgroup V、adenocarcinoma (tub2) の所見であった。

また、胃角部小彎にも腺腫を認めた。

CTで遠隔転移、リンパ節転移を認めず、腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した。

病 理：幽門前庭部病変；L、Type2、42.8×38.8mm、tub2>tub1、pT2 (MP)、ly0、v1、N1、P0、H0、M0、Stage IIA

考 察：平成27年度の胃X線画像を遡及的に検討したが、病変の指摘は困難と考えられた。

2. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成29年2月18日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 上 田 康 仁

症 例：68歳、男性

主 訴：咳嗽

既往歴：小学生の頃肺結核

生活歴：喫煙なし、粉じん暴露歴なし

病 歴：検診はほぼ毎年受けていたが、異常を指摘されていなかった。2-3ヶ月前からの咳嗽を主訴に2016年7月に当院を初診された。

臨床経過：CTで左上葉に腫瘤影を認め、精査の結果、肺扁平上皮癌 cT4N1M0（第7版）stage IIIAと診断した。免疫染色でTTF1陰性、CK5陽性、p63陽性と扁平上皮癌のパターンだったが、EGFR変異が陽性であった。放射線化学療法を強く勧めたが、家庭事情などで同意されず、根治的治療でないことは理解の上でerlotinibを開始し腫瘍は縮小傾向にある。

考 察：本例は2012年、2013年、2014年、2016年に検診を受診していたが、結核後遺症の陰影も従来あり、精査にまわっていなかった（satisfaction error）。教訓的一例であったと思われるため報告した。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 松 岡 佑 樹

症 例：70歳代、男性

主 訴：特になし（胸部異常陰影）

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙 40本/日×10年

常用薬：なし

現病歴：毎年肺がん検診を受けていたが異常を指摘されたことはなかった。平成28年9月の検診で胸部X線D4判定を指摘され、当院を受診。

臨床経過：CTで左下葉に18mm大のpart-solid GGOを認め、充実部分径は10mmであった。気管支鏡下肺生検では確定診断得られなかった。画像上肺癌が強く疑われるため、cT1aN0M0 stage IA1として診断を兼ねた治療目的に手術の方針とした。部分切除で肺腺癌の診断を得たため、追加で左肺下葉切除術を施行した。病理診断は浸潤性肺腺癌、病理病期 T1bN0M0 stage IA2であった。

考 察：レトロスペクティブに検診の胸部単純X線を見直すと、2年前は指摘困難であるが、1年前は左中肺野外側の肋骨と重なる部位に淡い透過性低下域を指摘可能であった。本症例は正常構造と重なる陰影であったことに加え、不均一なX線透過性低下を示す腺癌であったことから指摘が困難になったものと考えられた。比較読影により、軽微な変化を捉えることがより重要であった症例と考えられた。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 城 所 嘉 輝

症例1：50歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまで検診を受診では異常の指摘なし。平成27年の検診にて右上肺野の異常陰影を指摘されて当院を受診した。

既往歴：2型糖尿病

喫煙歴：40本/日×30年、現喫煙。

臨床経過：胸部X線では右上肺野に淡い2cm大の結節を認めた。血液検査では腫瘍マーカーの上昇は見られなかった。胸部CTでは右上葉に15×15×14mmの不整形充実結節を認め、縦隔および肺門リンパ節に腫大を認めた。FDG-PET検査で右上葉の腫瘍には早期相3.9および後期相6.4の集積を認めた。また、CTで腫大の見られたリンパ節にも中等度の集積を認めた。気管支鏡検査にて右上葉肺癌cT1bN2M0、stage IIIAと診断した。術前化学療法の提示も行ったが、手術を強く希望され、胸腔鏡下右肺上葉切除+ND2a-2を施行した。術後病理は、Invasive adenocarcinoma、solid-predominant (90%)、lepidic (10%)、pI0、G3、Ly0、V0、pm0、R0、pN2#2R(2/5)#4R(1/2)#12u(1/2)、pT1bN2M0、stage IIIAであった。術後はシスプラチン併用補助化学療法を行い、現在術後1年経過するが無再発生存中である。

症例2：80歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：これまでの検診では異常の指摘なし。平成25年の検診で左上肺野に異常を指摘されて近医を受診。近医でCTを施行され、左上葉に線状の陰影であったため画像フォローされていたが、経時的に増大を認めて精査加療目的に平成28年に当院へ紹介受診となった。

既往歴：胃癌術後

喫煙歴：なし

臨床経過：胸部CTでは左上葉に50×40×23mmの不整形の充実性腫瘤を認めた。PET/CTでは同部位にSUVmax5.58と中等度の集積を認めた。肺門および縦隔リンパ節には腫大および集積は認めなかった。また、腫瘍マーカーの上昇は認めなかった。気管支鏡検査で左上葉肺癌cT2bN0M0、stage IIAと診断した。高齢であったが、全身状態は非常に良好で本人とご家族も手術を希望されたため手術方針とした。手術は胸腔鏡下左上葉切除+ND1b+上縦隔リンパ節サンプリングを施行した。病理診断は、Invasive adenocarcinoma、acinar-predominant (65%)、papillary (25%)、micropapillary (5%)、lepidic (5%)、pI1、G2、Ly1、V1、pm0、pN2#5(1/2)#11(1/3)#12(2/4)#13(2/4)、cT2bN2M0、stage IIIAであった。高齢のため術後補助化学療法は施行せず、外来にて経過観察中である。

考 察：検診発見肺癌では腫瘍径は2～3cm程度のもが多く、10～20%は術前あるいは術後にリンパ節転移が判明する。症例1は小型肺腺癌であったが、術前にリンパ節転移を伴う症例であった。一方、症例2は比較的腫瘍径の大きい腫瘍であったが、術前にはリンパ節転移のない症例と判断していた。いずれの症例も充実性の結節ないし腫瘤でありリンパ節転移の危険因子である。小型であっても進行癌である場合もあり、可能な限り早期発見できるように、さらなる検診の精度向上が期待される。

3. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成28年8月27日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由 美

「視触診のみで発見された乳癌症例」

視触診のみで異常を指摘され、マンモグラフィで異常を指摘できなかった乳癌症例が、東部地区は1症例あった。鳥取市立病院で治療を受けており、市立病院のご厚意で資料を提供いただき報告する。

症 例：62歳、女性

初回の検診受診であった。触診で左C領域に2×2cm大の腫瘤を触知したが、腋窩リンパ節は触知しなかった。マンモグラフィでは2名の読影医ともに両側カテゴリー1と判定した。マンモグラフィはdense breastであり、見直しの写真でも腫瘤の指摘は困難であった。また、C-C方向の写真を加えると左乳房外側にわずかに腫瘤様の所見を指摘することができた。超音波、MRIでも腫瘤影を指摘することができ、CT画像では複数のリンパ節転移の所見を認めた。本症例は左乳房切除術と腋窩リンパ節郭清が行われ、リンパ節転移も7個陽性であり、Stage IIIAと診断された。本症例はdense breastであったため腫瘤の描出が困難であったが、2方向撮影をしていれば腫瘤影が指摘できた可能性もある。

他施設からの報告もあわせて検討すると、視触診の省略に向けてdense breastの場合、マンモグラフィで病変が指摘できない問題がある。本人の自覚症状に対する問診を丁寧に行い、場合によっては2方向撮影も検討していく必要がある。また、検診受診者にはマンモグラフィの限界に関しても十分理解していただき、自己触診を啓発していく必要があると思われる。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 児 玉 渉

「2年間で広範囲に拡大した区域性微小石灰化病変」

症 例：50歳代、女性

主 訴：MMG微小石灰化

現病歴：2年前に乳がん検診を受け異常はなく、今回の乳がん検診で左乳房に微小石灰化を指摘され、当科を受診した。

視触診：特記所見なし

MMG：左UM・Oに微小円形石灰化を区域性に認めた（cat-4）。2年前のMMGでは左Uにわずかな石灰化を認めた（cat-2）。

エコー：左C領域に5mmの結節影とMMGと一致する範囲に、微小石灰化像と乳管拡張像を認めた。
造影CT・造影MRI：明らかな濃染結節や濃染領域像なし。

FNA：class3a。

エコー下針生検：非浸潤性乳管癌の診断となった。

治 療：エコー所見とMMGから推測されるC領域の広範囲のDCISと診断し、本人と家族と相談し、左乳房切除術の方針となった。センチネルリンパ節に転移は無かった。

病理診断：摘出標本の大半が乳腺症所見であり、2か所のみ5mm程度のcribriform typeのDCISが

存在した。

考 察：非触知石灰化病変は、術前診断と術後病理診断が乖離する事があり、術前DCISと診断されるも浸潤癌が含まれる事もあるが、本症例のように広範囲な石灰化病変の一部のみDCISが存在する場合もある。微小石灰化病変に対して、切除範囲の決定に苦慮する症例であり、整容性にとられ根治性を損なう事は勧められず、切除範囲を十分に検討しなければならない。

結 語：今後もMMG検診が広まる中で早期病変が増加しており、このように切除範囲に苦慮する症例が増加すると考えられる。

[西部症例] 提出者：鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座 廣 岡 保 明
『視触診のみで要精査となった乳がん症例』

平成26年度の鳥取県乳がん検診でMMGでは異常を認めず、視触診のみで要精査となった西部の2症例を供覧する。

症例1：70歳代、女性

一次検診施設の視触診で要精査、MMGはカテゴリー1。

精密検査の視触診で2cm大の腫瘤を右乳房に触知し、MMGでは右乳房にFAD（カテゴリー3）と評価された。

同部のエコーで約17mmの腫瘤陰影（カテゴリー4）を認め、穿刺吸引細胞診で悪性細胞（+）となった。引き続き右乳房温存療法が施行された。病理診断は粘液癌であった。

本症例の一次検診時のMMGの見直しを行った所、やはり病変が確認され、見落としが疑われた。今後、さらなる精度管理（個人、病院へのプロセス指標の還元）の徹底、講習会開催、読影医へのフィードバック、などが必要と思われた。

症例2：70歳代、女性

一次検診施設の視触診で要精査（右乳房下縁に皮膚浸潤+の腫瘤）、MMGはカテゴリー1。精密検査では同様に、右乳房内側下縁に皮膚浸潤を伴う15mmの腫瘤を触知したが、MMGでは写っていなかった。

エコーでは乳がん（疑）、MRIでも同部に皮膚浸潤を伴う腫瘤がみられた。引き続き右乳房温存療法が施行された。病理診断は乳頭腺管癌であった。

本症例の腫瘤はMMGの撮影範囲に入っていなかった可能性が高く、今後は視触診が廃止されるため、MMGの撮影技師が気がついた点（ほくろ、皮膚潰瘍、傷跡、など）を記載できる欄を報告書に設ける予定である。

4. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成28年8月6日(土) 午後3時～午後5時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取生協病院 宮崎 慎一

症 例：70歳代、女性

主 訴：検診での便潜血陽性

既往歴：高血圧

現病歴：大腸がん検診にて便潜血陽性を指摘され、平成27年12月当院へ紹介となる。下部内視鏡検査を施行したところ、S状結腸に15mm大の0-Is+Iicを認めた。拡大観察にてSM深部浸潤癌が疑われ生検したところGroup5であり、S状結腸切除を施行した。

病 理：S、type0-Is+Iic、15×16mm、tub2、pT2(MP)、INFb、ly1、v1、pN0、pPM0、pDM0、cM0、Stage I

検 討：15mmと小さな癌ではあるが、深達度はMPで脈管侵襲も認められた。他にポリープも認めず単発病変であり、今回見逃すと取り返しのつかない状況になっていたと思われる。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 長谷川 亮介

症 例：57歳、女性

主 訴：大腸がん検診にて便潜血陽性

既往歴：特記事項なし

生活歴：飲酒、喫煙なし

家族歴：特記事項なし

現病歴：平成27年6月、大腸がん検診で便潜血陽性となり、その後、当院を受診。

経 過：平成28年1月、大腸内視鏡検査を行い、S状結腸に1cm大のIIa+Iic病変を認め、肉眼的にMP以上の浸潤が疑われ、外科的切除を行った。

病 理：Type0-IIa+Iic 10mm×10mm、adenocarcinoma (tub1)、ss、int、INFb、ly2、v1、pm(-)、dm(-)、rm(-)、n242(+)、Stage IIIa

検 討：平成25年の大腸内視鏡検査では、悪性所見は認めず、今回、便潜血陽性で大腸内視鏡検査を施行し、悪性所見を認めた症例である。毎年の検診の重要性を感じる1例であった。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 向山 智之

症 例：67歳男性

主 訴：大腸がん検診で便潜血陽性

既往歴：高血圧

現病歴：平成25年便潜血陽性を指摘。下部消化管内視鏡検査で異常なし。

平成27年再び便潜血陽性を指摘。

経 過：下部消化管内視鏡検査で直腸Rbに約44mm大の隆起性病変を認め、生検で直腸カルチノイドと診断。NET G2に相当し外科的切除を行った。

病 理：Rb、pType1、44mm、Carcinoid tumor (NET G2)、pT3(A、固有筋層下縁から5mm)、

med、INFb、ly0(D2-40)、v0(CD34)、PN0、pN1(2/14) [242=0/1、251=2/9、252=0/2、
253=0/2]、pPM0、pDM0、pRMX

免疫染色結果：陽性：Chromogranin A (focal)、synaptophysin MIB-1 index：18.8% 核分裂
像は7/10HPF

検 討：逐年検診の重要性が再認識された。

5. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成29年2月25日(土) 午後3時30分～午後5時20分

場 所 鳥取県東部医師会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 三村 憲一

「放射線治療が著効した脈管浸潤を伴うHCCの一例」

鳥取赤十字病院内科 三村憲一、浜本航、岡田智之、斧山巧、後藤大輔、満田朱理、田中久雄

症 例：72歳、男性

主 訴：なし（肝腫瘍精査加療）

既往歴：糖尿病、糖尿病性腎症、高血圧症、慢性腎不全にて人工透析施行中。

生活歴：機会飲酒程度、喫煙 5本×10年間

現病歴：慢性腎不全のため近医にて透析を実施され、定期的な検査を受けている。

透析導入時からC型肝炎を指摘されていたが治療は行われていない。

20XX年11月に検診での胸部X線撮影で胸部異常影を指摘された。精査目的の胸部単純CTで偶然、肝腫瘍を指摘され当科紹介、受診となる。ダイナミックCTで肝S4に25mm大の早期濃染を示す腫瘍を認め、同年12月に精査加療目的にて入院となった。

入院時現症：身長172cm、体重56.8kg、貧血なし、黄疸なし、胸部および腹部に異常を認めず、下腿浮腫認めず。

入院時検査成績：WBC7330/ μ l、RBC437×10⁴/ μ l、Hb 12.7g/dl、Plt 15.4×10⁴/ μ l、PT 125%、TP 8.5g/dl、Alb 4.1g/dl、T. Bil 0.3mg/dl、BUN 40mg/dl、Cr 8.33mg/dl、AST 34IU/l、ALT 35IU/l、LDH 259IU/l、 γ -GTP 153IU/l、CRP 0.6mg/dl、HBs抗原(-)、HCV抗体(+)、HCV-RNA 7.4 Log IU/ml、AFP 67ng/mL、PIVKA-II 580mAU/mL

腹部超音波検査では肝は慢性肝疾患パターンで、肝S4に28mm大の低吸収エコー病変を認めた。また腹部ダイナミックCTでは肝S4/5に25mmの淡い早期濃染を示す腫瘍性病変を認めた。腫瘍から中肝静脈、下大静脈に連続する低吸収な病変を認めた。

臨床経過：肝細胞癌の下大静脈浸潤(Vv3)と診断した。患者の全身状態から切除は困難であり、また腫瘍本体のvascularityが低くTACEは効果が乏しいと予想された。化学療法もソラフェニブならびにシスプラチンは透析患者であるため治療方針から除外した。このため放射線単独療法を選択した。総線量50Gy照射を行い治療終了後17日目にCTを撮影したところ肝S4の主結節は18mmに縮小し、静脈腫瘍栓も著明に縮小を認めた。またAFP、PIVKA-IIともに正常化していた。その後の画像検査でも下大静脈の腫瘍栓は消失し、HCCの主結節は不明瞭化し1年以上経過した後に著効と判定した。

考 察：第19回全国原発性肝癌追跡調査報告によるとHCC治療の中で放射線治療が行われる例は0.5%程度とされる。従来、放射線照射後の肝機能低下のため選択されることは少なかったが、体幹部定位放射線療法や粒子線療法などの治療が応用され、その有効性を示す報告が増えている。2013年版肝癌診療ガイドラインにTACE併用で生存期間の延長が期待されると追記された。複数の報告でも門脈あるいは下大静脈腫瘍栓に対する放射線療法は生存期間を延長するとしており有用な治療と考えられる。本症例においては従来の放射線治療が実施され、著効が得られた。

結 語：下大静脈腫瘍栓を有するHCCに対し放射線単独療法を行い、著効が得られた一例を経験した。従来、緩和的治療以外の選択肢が考慮されにくい合併症を有する進行肝癌の症例に対する治療選択肢の一つとして検討に値するものと考えられた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 永原天和

「インターフェロンフリー治療後の肝発癌症例について」

鳥取県立厚生病院においてインターフェロンフリー治療を導入した慢性C型肝炎（代償性C型肝炎硬変を含む）187症例について検討した。

年齢中央値は69歳、最高齢は89歳であった。男性82例、女性105例と女性のほうが多かった。セログループは1型164例、2型23例であった。HCC治療歴有りは61例で、肝硬変例は47例であった。インターフェロン療法の患者層よりも年齢が高く、線維化進行例、HCC治療歴有りの症例が多く含まれていた。SVR12の判定可能な154例のうち、再燃例はソホスブビル・リバビリン療法を行った慢性C型肝炎（2型）の1例のみであった。最初に登場したインターフェロンフリー治療であるダクラタスビル・アスナプレビル療法の患者は、高齢で、血小板が低く、AFPが高いといったより肝発癌リスクの高い患者層であり、より抗ウイルス療法が急がれる症例が選択されていた。治療後のAFP値はいずれの治療においても低下が得られていた。血小板は治療後12週では大きな変化は認めなかった。

治療終了後の肝発癌について検討した。175例のうち、156例はHCCを認めなかった。インターフェロンフリー治療前にHCC治療歴のある61例のうち12例は再発を認めた。HCC治療歴がなく、インターフェロンフリー治療後に初めてHCCを発症した初発例は6例であった。HCC発症例は治療前のAFPやPIVKA-IIが高かった。HCC初発例（6例）において、インターフェロンフリー治療後6ヶ月以内の肝発癌は3例、6ヶ月以上経過後が3例であった。肝硬変、血小板低下、AFP高値のいずれも該当しない症例からの発癌もあった。HCCはいずれも2cm以内で発見されており根治的治療が可能だった。

インターフェロンフリー治療でSVRが得られたとしても肝発癌リスクはゼロではなく、HCCサーベイランスの継続が重要と考えられた。特に、高齢、線維化進行、飲酒、脂肪肝、糖尿病、HCCの既往、AFP高値などリスク因子のある症例ではより厳重なフォローアップが必要と考えられた。

[西部症例]

提出者：山陰労災病院 西向栄治

「HBc抗体陽性者、非B非C肝硬変（NASH）に発症した肝臓癌の2例」

山陰労災病院 消化器内科 ○西向栄治、岸本幸廣、前田直人、今本龍、大谷英之、角田宏明、向山智之、謝花典子、川崎寛中、放射線科 高杉昌平、井隼孝司

近年、初発肝細胞癌の成因のうち非B非C型が占める割合が4～5割に増加してきているのが知られている。今回、HBc抗体陽性者の既感染症例と、非B非C肝硬変（NASH）症例に発症した肝臓癌の2例を報告する。

症例1は、HBs抗体とHBc抗体陽性のHBV既感染で、飲酒歴と喫煙歴を有し肝機能正常であるが慢性肝炎像を呈した60代男性。主訴は全身倦怠感、食思不振、多発肝腫瘍。精査加療目的のため紹介受診。喫煙20本/日×47年、飲酒ビール500ml×24年。黄疸貧血なし、腹水なし。TBil 1.7、alb 4.0、PT 85%、AST 26、ALT 25、rGTP 60、WBC 12600、Hb 13.9、Plt 34.3万、AFP 189、PIVKAII 7882、HBs抗原陰性、HBs抗体陽性93.1、HBc抗体陽性49.9、HBVDNA検出せず、HBV

ゲノタイプ：判定保留、HCV抗体陰性。

腹部US、CTで、表面平滑、辺縁鈍な慢性肝臓病像を呈し、肝左葉S4からS7にかけて4～6 cm大の造影効果を有する多発腫瘤を認め、肝動脈塞栓術が行われた。

症例2は、肥満、糖尿病、喫煙歴を有する60代男性の肝硬変例（非B非C、NASH）。主訴は腫瘍マーカーの上昇。163cm、98kgの肥満。高血圧、糖尿病、高脂血症で近医通院中。喫煙歴20本/日×46年、機会飲酒。2年前、総胆管結石と診断加療された。その際CTで肝硬変であると診断され外来で食事療法を試しながら経過観察していたが、AFP/PIVKAI=147/96と軽度上昇を示した。精査加療目的で入院。TBil 2.4、alb 3.5、PT 71%、AST 47、ALT 51、rGTP 85、ZTT 19.3、TTT 20.5、WBC 6100、Hb 16.7、Plt 10.4万、IgG 2088、IgA 591、IgM 218、HBs抗原陰性、s抗体陰性、c抗体陰性。HCV抗体陰性。抗核抗体陰性。抗DNA抗体陰性、抗ミトコンドリアM2抗体陰性。HbA1c 7.9%。

造影CTで、肝S8/7にΦ3,4cmの多血性腫瘤、および近傍に1 cm以下の衛生結節を認め、肝動脈塞栓術が行われた。

考 察：当院で平成27年度の初発肝癌の36例中9例（25%）は、糖尿病でフォロー中であった。これに加え糖尿病の患者では、その発癌リスクも考慮し、年に1回以上の超音波検査および腫瘍マーカーを調べる注意する必要があると考えた。さらに、肝障害が変動する症例、血小板減少と伴う肝疾患症例、画像上慢性肝臓病をみとめる症例、HBc抗体強陽性症例（HBV既感染例）、飲酒歴を有する症例、喫煙歴を有する症例、肥満症例なども、糖尿病症例と同様に、年に1回以上の超音波検査および腫瘍マーカーチェックが推奨されることが考えられる。

6. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	16	27	457	5	19	106	5	9	156	26	55	719
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	3	5	48	11	78	143	9	31	86	23	114	277
乳 がん	1	9	17	1	12	23	2	20	60	4	41	100
大腸がん	9	12	271	3	5	46	4	5	136	16	22	453
肝臓がん	3	8	169	5	10	99	5	15	153	13	33	421
合 計	32回			25回			25回			82回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H29. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中
肺がん一次検診医療機関	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
肺がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
乳がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
大腸がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H28. 4. 1～H31. 3. 31	H30年度中	H28. 4. 1～H31. 3. 31

※「鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録実施要綱」は、平成29年3月31日をもって廃止。

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できることが望ましい。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。(携帯型超音波装置は除く。)

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回/年	3点

(鳥根県開催も対象)

(注) 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あ と が き

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会では検診の精度管理について検討を続けております。「がん検診実施のための指針」が改訂され、乳がん検診においては指針通りマンモグラフィ単独となりましたが、胃内視鏡検診の開始年齢と実施間隔は従来通りとなりました。また、肺がん検診では病期分類の変更に伴い各種様式の変更を予定しています。引き続き、より良い検診となるよう努めてまいります。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第23報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫